

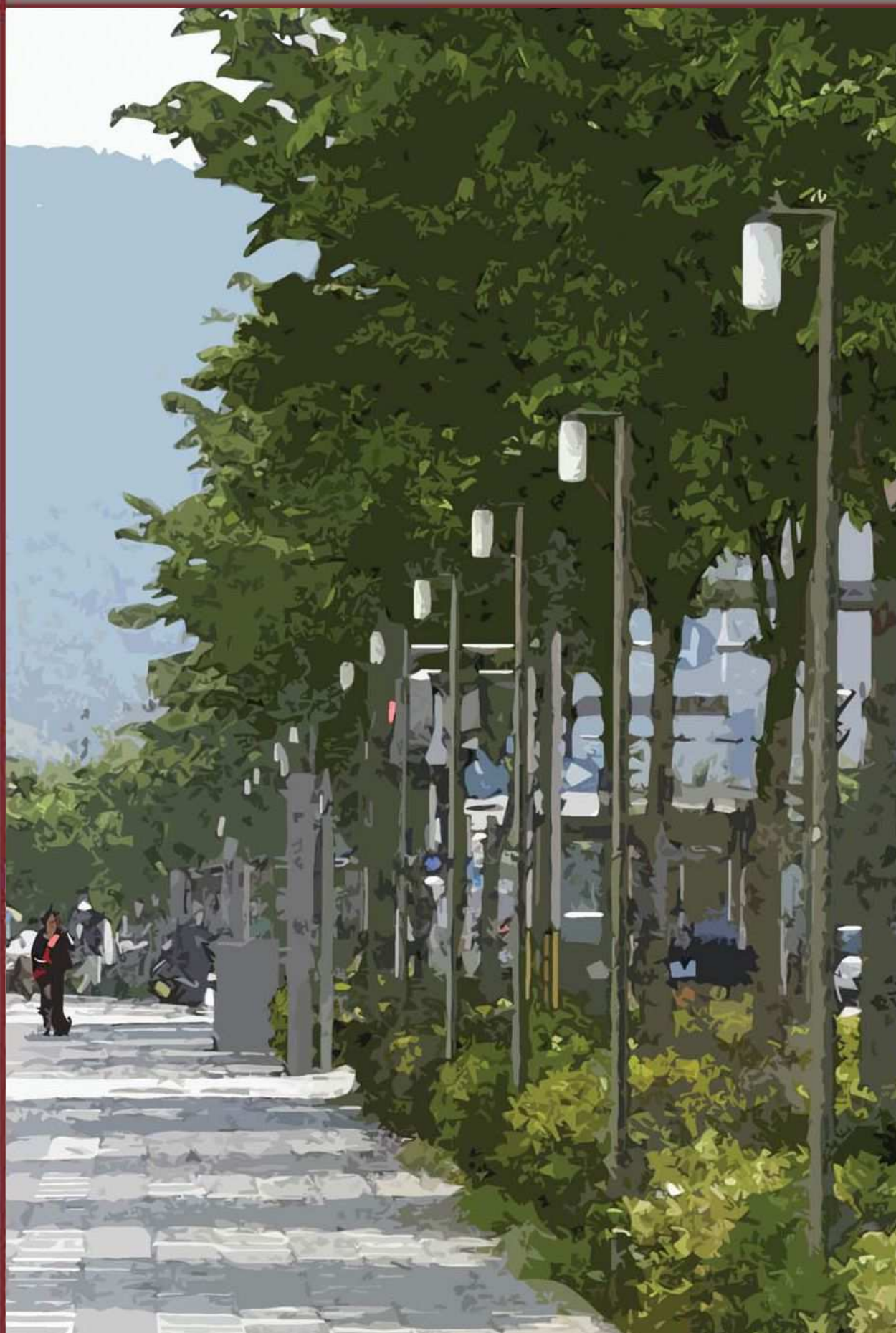
みやこ

京のみちデザインマニュアル

みやこ

～ 京の風土景観を巡る回遊のみちづくり～

令和5年3月



—目 次—

第 1	はじめに	1
1	目的	1
2	マニュアルの対象工事について	1
3	他の指針等について	2
4	注意事項	2
5	マニュアルの運用について	3
第 2	デザインマニュアル	5
1	どのようなみちか—みちの現状把握	5
(1)	みちの空間構成の把握	5
ア	みちの空間構成	5
イ	空間構成によるデザインの考え方	5
2	どのような地域か—みち周辺の現状把握	7
(1)	周辺状況の把握	7
(2)	地域特性の把握	8
(3)	景観計画区域等の把握	9
(4)	地域と景観計画区域との関係	11
(5)	景観協議等（参考）	12
3	どのようなみちにするのか—道路デザインの検討	13
(1)	デザインポイントについて	13
(2)	地域特性と空間構成による考え方	15
ア	舗装	15
(ア)	幹線道路	15
(イ)	生活道路	23
イ	工作物	31
(3)	自転車通行空間の色彩について	34
(4)	シミュレーションモデル	36
(5)	地域特性によるデザイン事例	40
4	指針に沿ったみちになっているか—道路デザインのチェック	44
(1)	チェック体制	44
(2)	京のみちデザインチェックシート	47
(3)	京のみちデザインチェックシート（簡易版）	51

第1 はじめに

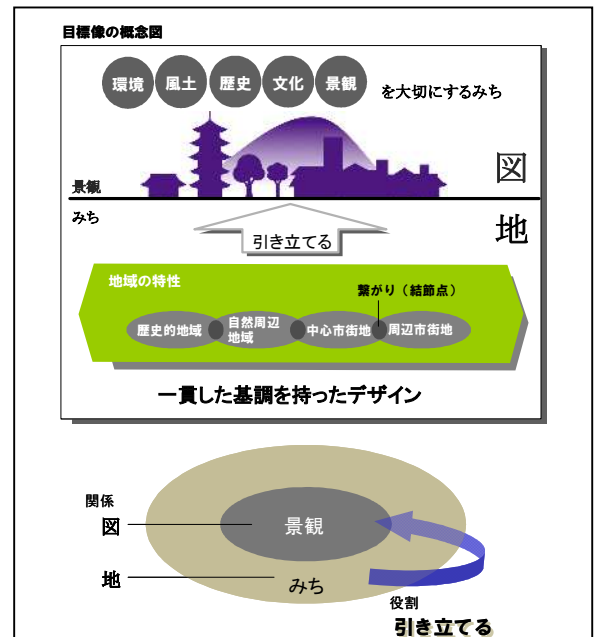
1 目的

「京（みやこ）のみちデザイン指針」（以下、「指針」という。）では、一貫性のある道路景観の創出を目指し、京（みやこ）のみちのデザインに関する基本的な考え方を示した。

「京（みやこ）のみちデザインマニュアル」（以下、「マニュアル」という。）では、今後、老朽化していく道路施設の更新、道路改良や道路新設等を行うに当たり、指針の考え方に基づいた道路デザインになるよう、具体的な検討方法を示すことを目的とする。

マニュアルでは、標準品を決めるのではなく、道路デザインの検討方法を示し、今まで十分に検討されてこなかった道路景観について考えることで、京都の景観と調和し、その背景として景観を引き立てるデザインを実現していくものとする。

みちは景観を引き立てるという基本的な視点である目標像を常に意識し、安心・安全なみちであることを前提に、デザインを検討するものとする。



2 マニュアルの対象工事について

京都市認定道路（京都市が管理する道路法上の道路）において、指針で示すみちの構成要素である舗装（歩道等）、工作物（防護柵等）について新設、改築、補修及び復旧を行うすべての工事を対象とする。ただし、緊急工事等、所属長がやむを得ないと認める工事は、対象外とする。

対象とする具体的なみちの構成要素は以下のとおり。

ア 舗装

ただし、黒色アスファルトを使用する場合を除く。

イ 工作物

(ア) 歩行者用防護柵（横断防止柵，転落防止柵）

(イ) 車両用防護柵

(ウ) 車止め

(エ) 道路照明灯

(オ) 横断歩道橋

(カ) 橋梁の高欄

(キ) 標識（道路標識，区画線及び道路標示に関する命令における 105-A, B, C, 106-A, 108-A, B, 108 の 2-A, B, 108 の 3, 4 に規定する大型の案内標識等）

(ク) 地上機器

(ケ) その他

※ 「植栽」については、このマニュアルには記載しない。植栽を施工する場合は、みどり政策推進室と十分協議すること。

3 他の指針等について

京都市以外が作成した道路デザインに関する指針等を以下に示す。これらの指針等にも十分配慮して検討を行う。

- ・道路のデザイン指針（H29.10）国土交通省
- ・景観に配慮した道路附属物等ガイドライン（H29.10）国土交通省

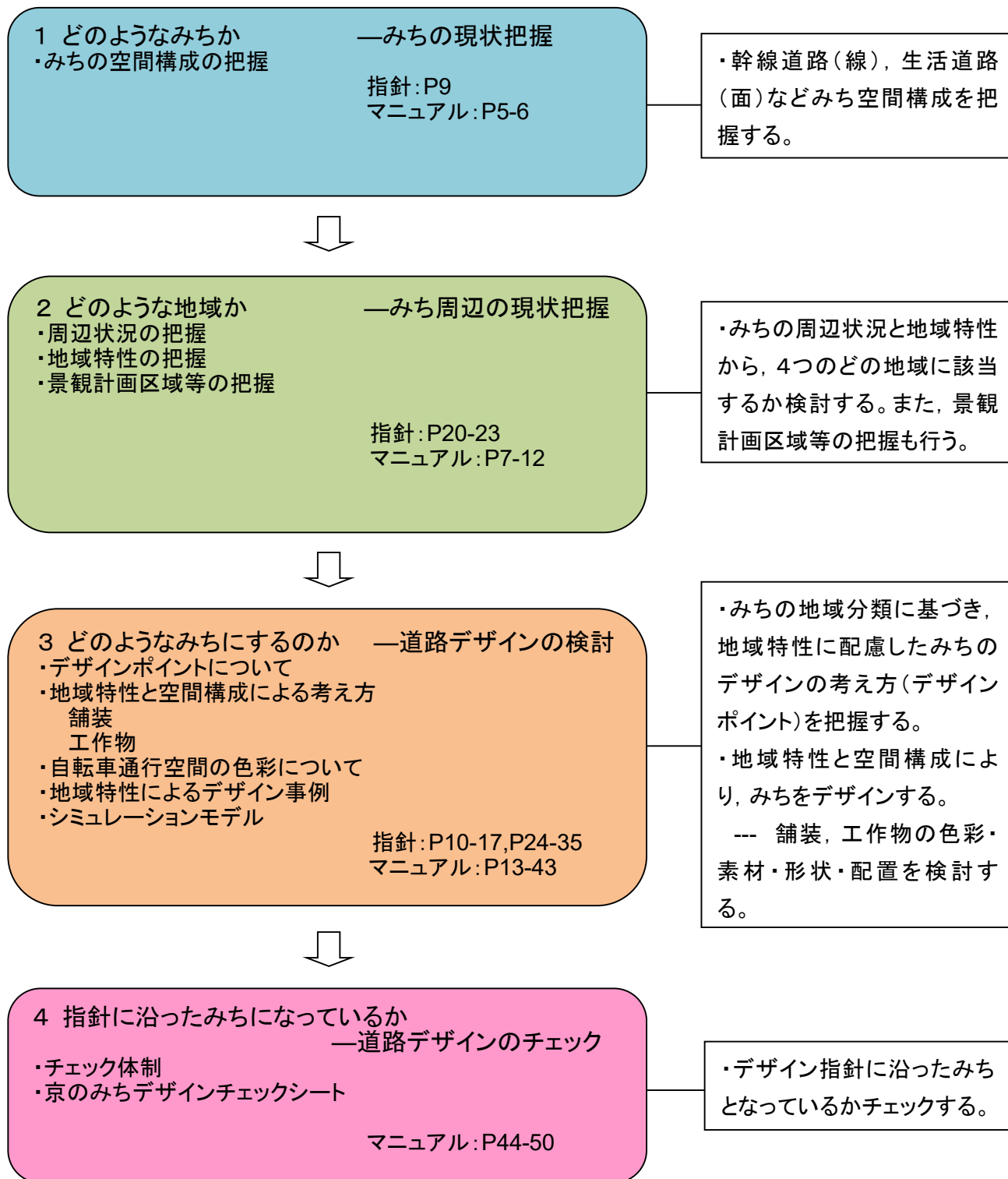
4 注意事項

- マニュアルは、グレードアップを行うものではなく、道路デザインを検討する場合に統一したデザインにすることを目的としている。ただし、地域によっては、グレードの高い素材の検討を行うことも必要である。
- 舗装の色彩を検討する際には、点字ブロックの輝度比については十分配慮する。また、必要に応じて関係機関等と協議を行う。

5 マニュアルの運用について

本マニュアルでは、対象工事について京のみちデザインチェックシートを作成することにより、地域の状況を把握し、地域特性に応じた一貫性のある道路景観の創出を目指している。

以下にマニュアルを用いたデザインシートの記入方法をフローチャートで示す。



		決定日	/ /	
		審査委員会承認日	/ /	

京のみちデザインチェックシート

作成者		デザインの形式 (全項目)
工事名		
施工場所		
工事の目的		
工事概要		

道路の 現状把握	道路の 現状写真 (代表写真)	※その他、起点側、中央、終点側、起点側(施工外)、終 点側(施工外)については別紙を送付する。 又、舗装、工作物の拡大写真をそれぞれ添付する。			
	(代表写真)				
道路幅員構成 (起点ー終点)					
道路幅員	m=	a= m	b= m	c= m	d= m
車線数	☐ 4車線 ☐ 2車線 ☐ 1車線				
工作物の有無 (規格)	☐ 防護欄 ☐ 車止め ☐ 照明柱 ☐ その他()				
街路樹	☐ 低木 ☐ 高木 ☐ ない				
空間構成の把握	☐ 緑(幹線道路) ☐ 面(生活道路) ☐ 点()				

2どのような地域か

周辺状況の 把握	周辺建築物の 現状写真	※その他写真が必要な場合は、別紙を送付する。
	(代表写真)	
周辺建築物	周辺の建物	☐ 中高層ビル ☐ 中小ビル ☐ 低層住宅
		☐ 神社・仏閣 ☐ その他()
沿道景観の素材	☐ 工業系(コンクリート等) ☐ 自然系(木材等)	
隣接する自然	☐ 河川 ☐ 公園 ☐ その他()	
その他特記事項		
地域特性の 把握	地域	☐ 歴史的地域 ☐ 自然周辺地域 ☐ 中心市街地 ☐ 周辺市街地 ☐ にぎわい
景観計画区域等	景観区域の名称	眺望景観保全地域 ☐ 眺望空間 保全区域 ☐ 近景デザイン 保全区域 ☐ 遠景デザイン 保全区域 ☐ 要 , ☐ 不要

3どのようなみちにするのか

デザインに あたっての 考え方	デザインの形式 (舗装)	
舗装	素材	☐ アスファルト系 ☐ インターロッキングブロック ☐ 自然石 ☐ その他()
	環境への配慮:	
☐ 歩道	色彩	☐ 無彩色 ☐ 地色 ☐ その他()
☐ 路肩	明度()	☐ 彩色(☐ 2色 ☐ 3色 ☐ その他 , 明度差())
☐ その他 (車道等)	形状	☐ 矩形(長方形, 正方形) ☐ その他
	配置	☐ 基本配置 ☐ その他
(歩道一般部) カタログ等	素材・色彩・形状・配置	

※枠内への貼付が困難な場合は、別紙を送付する。

第2 デザインマニュアル

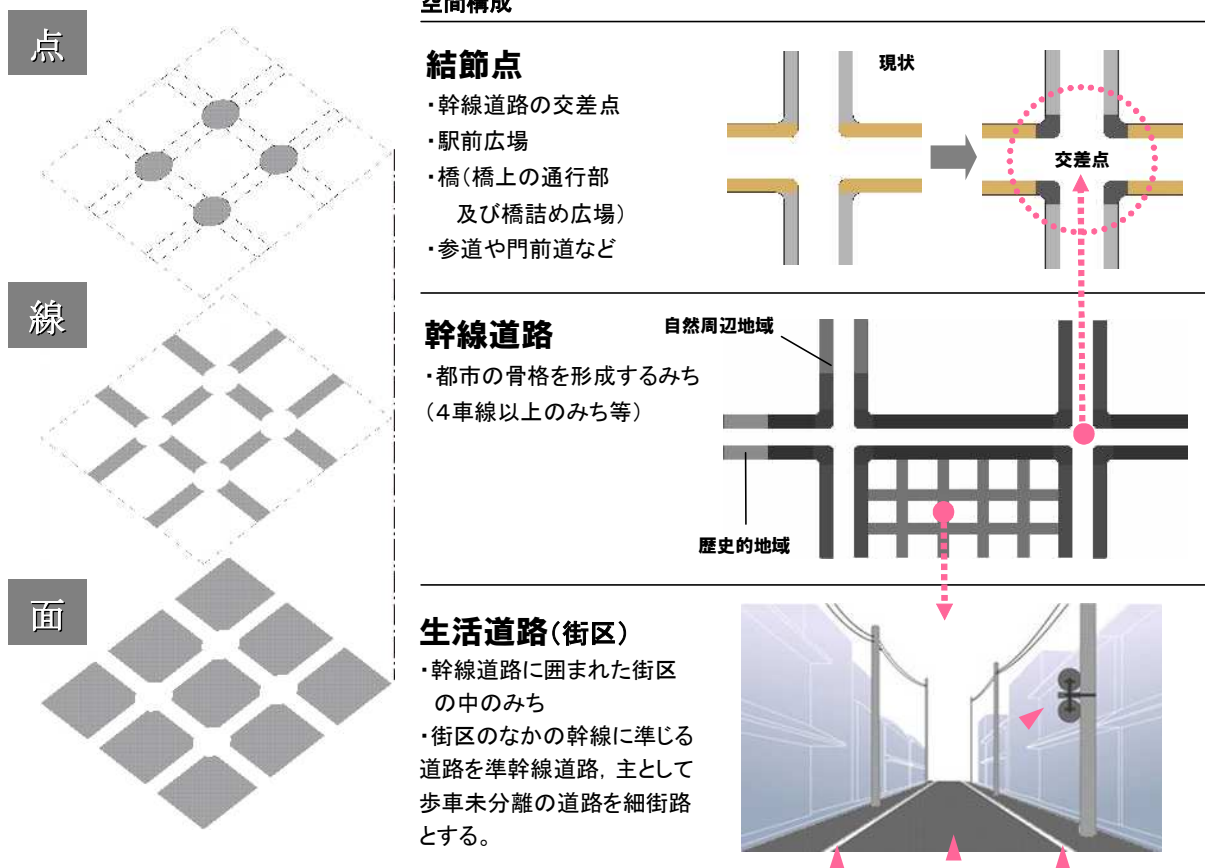
1 どのようなみちか—みちの現状把握

まず、みちの現状把握としてみちの空間構成の分類を行う。

(1) みちの空間構成の分類

ア みちの空間構成

みちを空間構成から、点・線・面から捉える。



イ 空間構成によるデザインの考え方

・ 幹線道路 (線)

幹線道路では、線としての連続性を重視し一貫したデザインを基本とする。

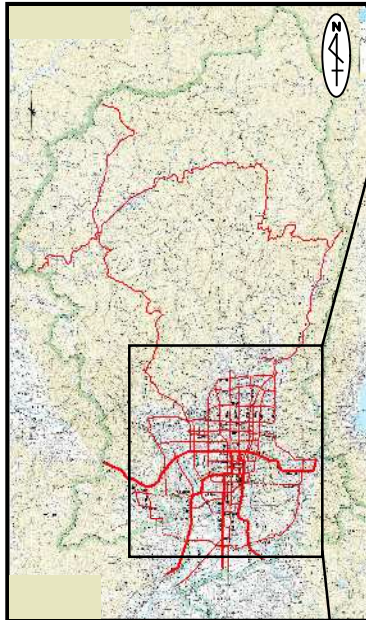
・ 生活道路 (面)

生活道路では、面としてのまとまりを重視したデザインを基本とする。

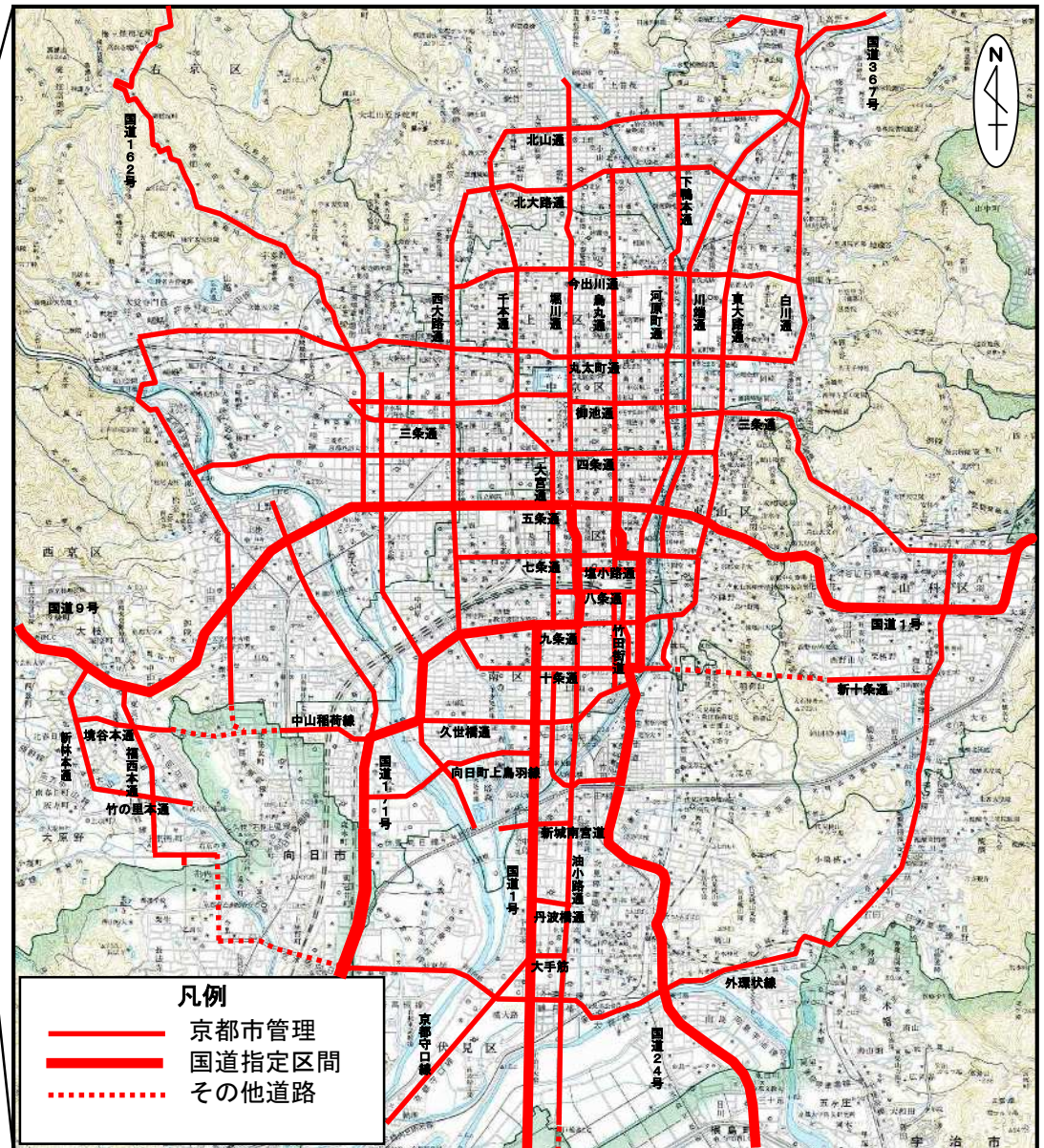
・ 結節点 (点)

交差点、橋、駅前広場等について、独立して検討する場合は、区切りのデザインに配慮するが、特殊な場所であるため、今回のマニュアルには記載しない。

下図に幹線道路を赤線で示す。示されていない道路は生活道路となる。
幹線道路は4車線以上のみちなど都市の骨格を形成するみちとする。



幹線道路網図



京のみちデザインチェックシート

道路幅員構成 (起点→終点)					
	道路幅員	m=	a= m	b= m	c= m
	舗装の素材				
	車線数	☐ 4車線	☐ 2車線	☐ 1車線	
工作物の有無 (規格)	☐ 防護柵	☐ 車止め	☐ 照明柱	☐ その他()	
街路樹	☐ 低木	☐ 高木		☐ ない	
空間構成の把握	☐ 緑(緑道・緑道)	☐ 雨(生活道路)	☐ 点()		

上図の赤線であれば幹線道路、それ以外は生活道路にチェックする。点は、橋梁等をデザインする場合にチェックする。

2 どのような地域か—みち周辺の現状把握

次に、みち周辺の現状把握として、周辺の状況や景観計画区域等を把握し、みちが属する4つの地域特性に分類する。

(1) 周辺状況の把握

周辺建造物の種類や周辺景観の色彩を把握する。

以下に、周辺景観の色彩の例を示す。



寺社の近辺で、沿道の素材は土や木などの自然系であり、暗めの色調



周辺は風情ある町並みで構成され、沿道の素材は土や木などの自然系であり、暗めの色調



河川に隣接し、沿道には緑が多く、四季により変化する色調



周辺には中高層ビルや低層住宅が多く、沿道の素材は工業系や自然系であり、さまざまな色調



周辺には中小ビルや低層住宅が多く、沿道の素材は工業系や自然系であり、さまざまな色調



周辺には高層ビルなどが多く、沿道の素材は工業系であり、中～明るめの色調

京のみちデザインチェックシート

	周辺建造物	周辺の建物	☐ 中高層ビル	☐ 中小ビル	☐ 低層住宅
			☐ 寺社・仏閣	☐ その他()	
		沿道景観の素材	☐ 工業系(コンクリート等)	☐ 自然系(木材等)	
		隣接する自然	☐ 河川	☐ 公園	☐ その他()
その他特記事項					
地域特性の把握	地域	☐ 歴史的地域	☐ 自然周辺地域	☐ 中心市街地	☐ 周辺市街地
		☐ にぎわい			
景観計画区域等	景観区域の名称		景観協議		
	眺望景観保全地域の名称	☐ 眺望空間保全区域	☐ 近景デザイン保全区域	☐ 遠景デザイン保全区域	☐ 要, ☐ 不要

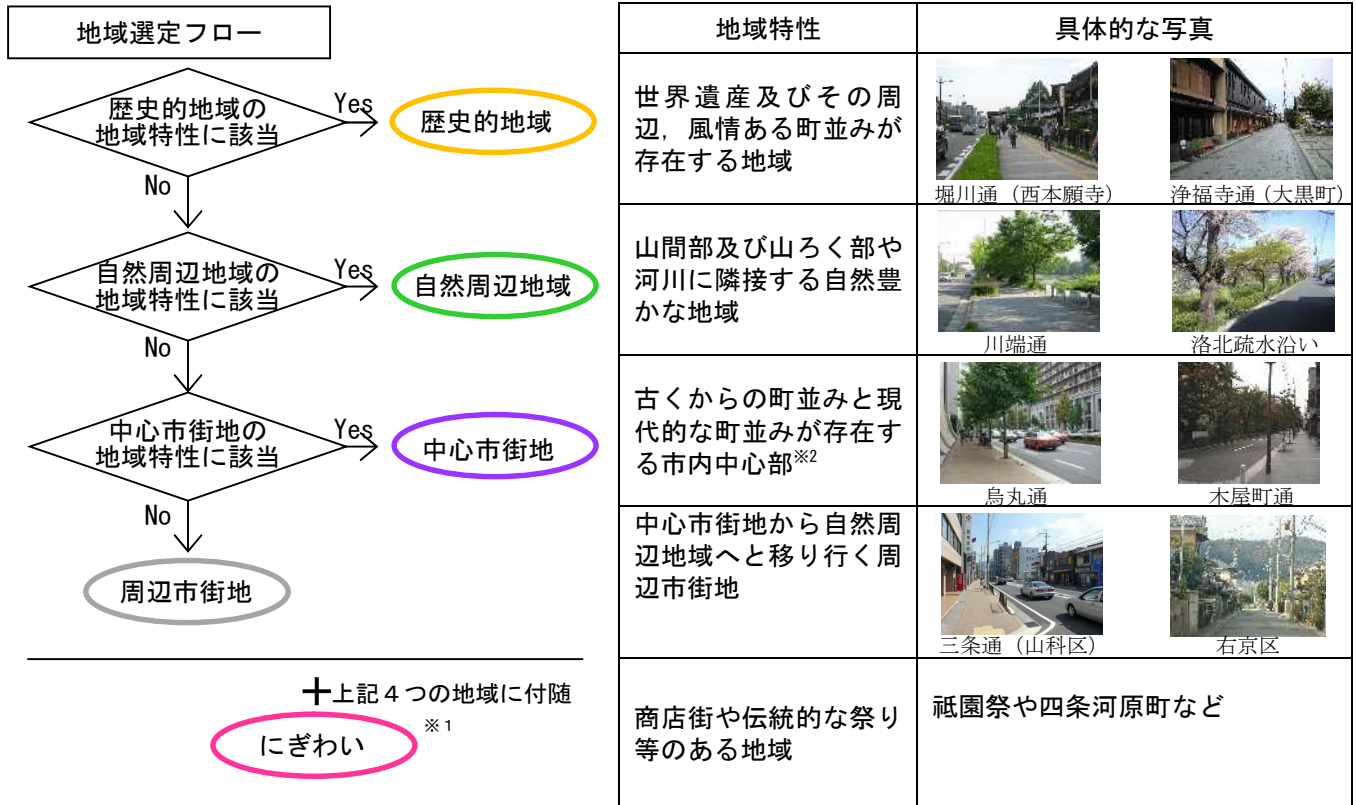
上記の例を参考に記入する。

(2) 地域特性の把握

次に、みちの周辺状況と地域特性から「歴史的地域」、「自然周辺地域」、「中心市街地」、「周辺市街地」のうちどの地域に該当するか検討する。

商店街や伝統的な祭り等のある地域は、他の地域に付随する特性を有する地域「にぎわい」※1として、デザインを別途考慮する。

地域の分類は以下のフローにより検討する。



※1「にぎわい」については、4つの地域に付随する特性として、商店街や伝統的な祭り等がある地域において適用する。このため、にぎわいは他の4つの地域に合わせて選ぶこととなる。

※2「中心市街地」は、北大路通、西大路通、九条通、東山山ろくで囲まれた旧市街地及び伏見旧市街地を原則とする。

京のみちデザインチェックシート

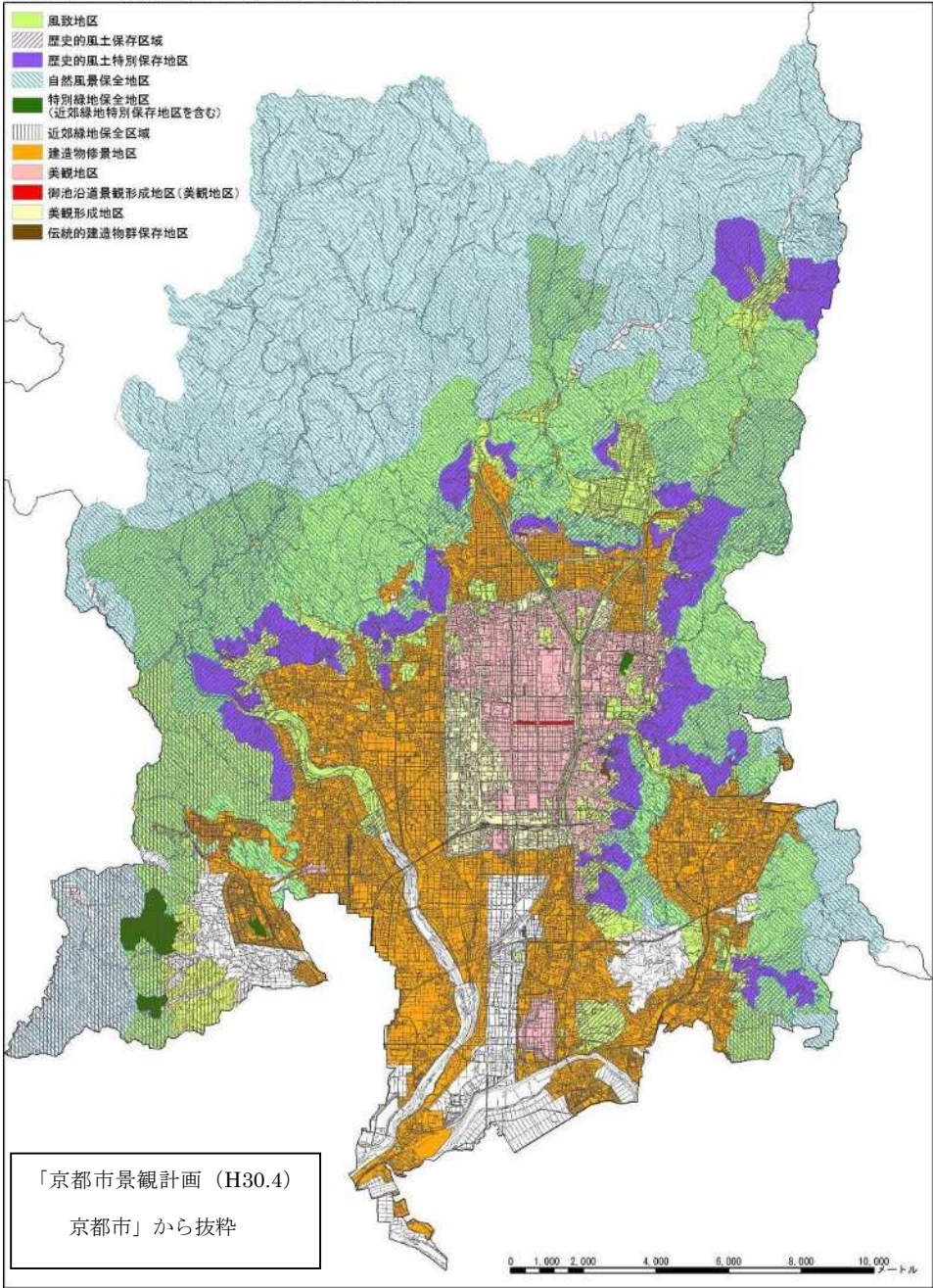
	周辺の建物	☐ 中層ビル ☐ 神社・仏閣	☐ 中小ビル ☐ その他()	☐ 低層住宅		
	沿道景観の素材	☐ 工業系(コンクリート等)				
	隣接する自然	☐ 河川 ☐ 公園	☐ 自然系(木材等) ☐ その他()			
その他登記事項						
地域特性の把握	地域	☐ 歴史的地域	☐ 自然周辺地域	☐ 中心市街地	☐ 周辺市街地	☐ にぎわい
景観計画区域等	景観区域の名称				景観協議	
	眺望景観保全地域の名称	☐ 眺望空間 保全区域	☐ 近景デザイン 保全区域	☐ 遠景デザイン 保全区域	☐ 要, ☐ 不要	

上記の例を参考に記入する。

(3) 景観計画区域等の把握

みちが属する景観計画区域等を把握し、法令に基づき都市計画局担当部署との景観に関する協議等が必要な場合は協議の上、デザインを検討する。

別図1 景観計画区域（区域区分図）

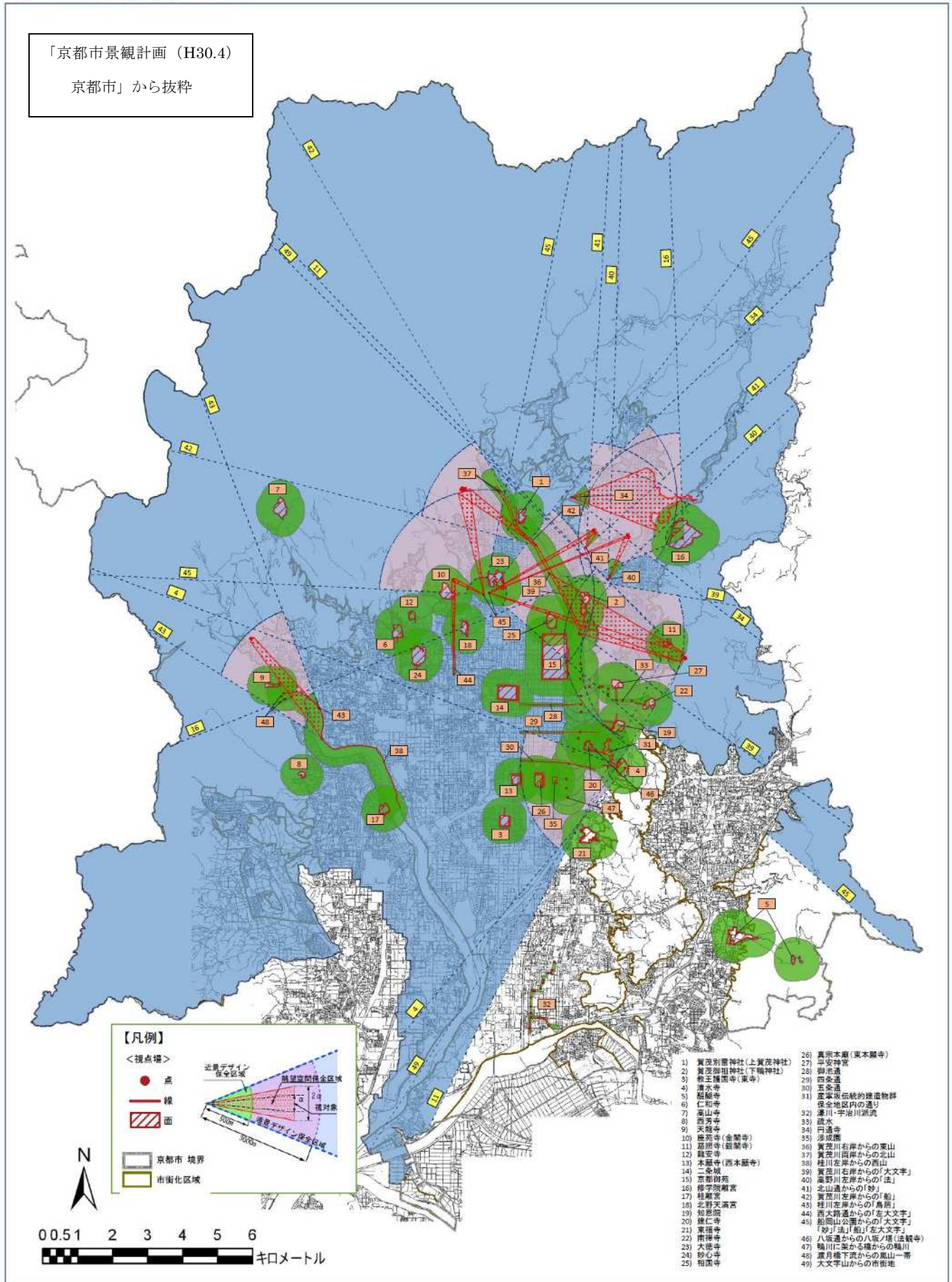


京のみちデザインチェックシート

	周辺建築物	周辺の建物	☐ 中高層ビル	☐ 中小ビル	☐ 低層住宅
			☐ 寺社・仏閣	☐ その他()	
	沿道景観の素材		☐ 工業系(コンクリート等)	☐ 自然系(木材等)	
		隣接する自然	☐ 河川	☐ 公園	☐ その他()
	その他登記事項				
地域特性の把握	地域	☐ 歴史的な地域	☐ 自然周辺地域	☐ 中心市街地	☐ 周辺市街地
		☐ にきわい			
景観計画区域等	景観区域の名称				景観協議 ☐ 要, ☐ 不要
	眺望景観保全地域の名称	☐ 眺望空間 保全区域	☐ 近景デザイン 保全区域	☐ 遠景デザイン 保全区域	

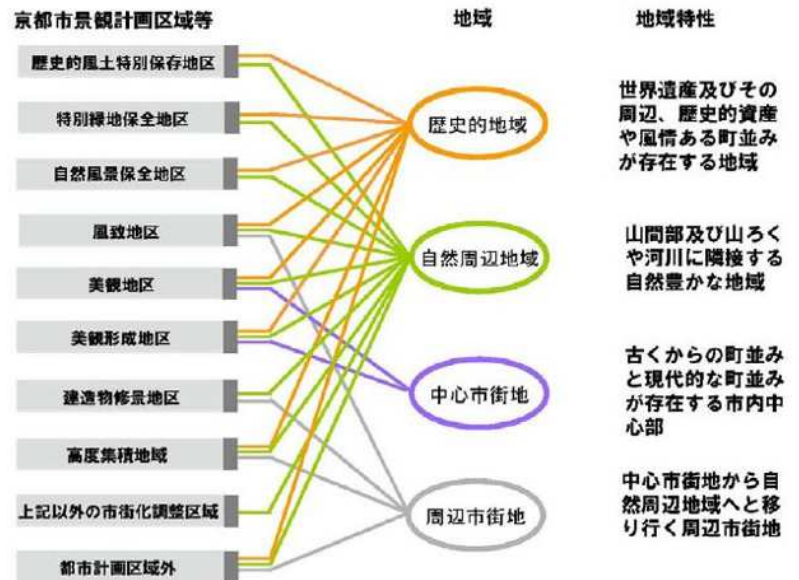
景観計画区域が複数該当する場合は、すべて記載する。

別図12 眺望景観保全地域



(4) 地域と景観計画区域との関係

参考として、地域特性と京都市景観計画区域等との相関及び概念図を右に示す。



また、地域特性を把握する参考として、地域特性と京都市景観区域等との相関及び具体的な場所の例を以下に示す。なお、具体的な場所がない計画区域等については記載を省略している。

歴史的な地域

京都市景観計画区域 等	具体的な場所
歴史的風土特別保存地区	世界遺産（賀茂別雷神社【上賀茂神社】、天龍寺、西芳寺【苔寺】、清水寺、醍醐寺など）周辺、修学院離宮周辺など
特別緑地保全地区	吉田神社、善峰寺周辺など
自然風景保全地区	世界遺産（高山寺）周辺など
風致地区	世界遺産（賀茂御祖神社【下鴨神社】）周辺、嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区、桂離宮周辺など
美観地区・美観形成地区	世界遺産（二条城、教王護国寺【東寺】、本願寺）周辺、産寧坂伝統的建造物群保存地区、上賀茂伝統的建造物群保存地区、京都御苑周辺など
高度集積地区	城南宮周辺など
都市計画区域外	常照皇寺周辺など

自然周辺地域

京都市景観計画区域 等	具体的な場所
歴史的風土特別保存地区	歴史的な地域以外
特別緑地保全地区	歴史的な地域以外
自然風景保全地区	歴史的な地域以外
風致地区	東山、北山、西山及びその山すそ、鴨川・高野川・桂川沿岸など
美観地区・美観形成地区	鴨川沿岸、疏水周辺など
建造物修景地区	下鴨（第二疏水分線沿い）など
高度集積地区	鴨川沿岸など
上記以外の市街化調整区域	大原野など
都市計画区域外	京北、花背、久多など

中心市街地

京都市景観計画区域 等	具体的な場所
美観地区・美観形成地区	歴史的な地域、自然周辺地域以外

周辺市街地

京都市景観計画区域 等	具体的な場所
風致地区	岩倉・上賀茂などにおける区画整理事業で整備された住宅地など
建造物修景地区	自然周辺地域以外
高度集積地区	竹田など
都市計画区域外	京北など

(5) 景観協議等 (参考)

事業の実施にあたっては、下表を参考に景観部門との協議を行う。

[A・B・C]: 第 A 条第 B 項第 C 号

担当課	区域の名称	主な関係法令	必要手続き	主な対象行為	想定される 工事例
風致 保全	風致地区	京都市風致 地区条例	協議(特例) [2-1(2-3)]	工作物の新築・改築(高さ1mを超えるもの)[2-1-1]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・改築
				建築物等の色彩その他の意匠の変更 [2-1-6]	高欄・横断歩道 橋の塗装替え
	歴史的風土保存区域	古都における 歴史的風土の 保全に関する 特別措置法	届出 [7-1]	工作物の新築・改築(高さ5mを超えるもの)[7-1-1, 施行令 3-1-2-2]	照明灯の 新築・改築
	歴史的風土特別保存地区		許可 [8-1]	工作物の新築・改築(高さ1.5mを超えるもの) [8-1-1, 施行令 5-1-1-2]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・改築
				建築物等の色彩その他の意匠の変更 [8-1-5, 施行令 5-1-5]	高欄・横断歩道 橋の塗装塗装替え
	自然風景保全地区	京都市自然 風景保全条例	協議(特例) [9-1(9-3)]	建築物等(高さ10mを超える)の新築等 [9-2]	高架道路の新設
			届出 [10-1]	道路法の規定による道路の改築, 維持, 修繕又は災害復旧に係る行為[10-1-14]	舗装
景観 政策	特別緑地保全地区 近郊緑地特別保全地区	都市緑地法	許可 [14-1]	工作物の新築・改築(高さ1.5mを超えるもの)[14-1-1, 14-9-6]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・改築
	近郊緑地保全区域	近畿圏の保全 区域の整備に 関する法律	届出 [8-1]	工作物の新築・改築[8-1-1]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・改築
	美観地区	京都市市街地 景観整備条例	通知(特例) [11-1(15-1)]	工作物(高さ1.5mを超える)の建設等(建 設, 外観を変更することとなる修繕若し しくは模様替え又は色彩の変更)[15-2]	高欄・防護柵・照 明灯の建設等
	美観形成地区		協議 [19-1]	高架工作物の建設等(新設, 外観を変更 することとなる修繕若しくは模様替え又 は色彩の変更)[19-1]	高架道路の 建設等
	歴史遺産型美観地区		協議 [19-2]	電柱, 公衆電話所, 案内標識その他の別 に定める工作物の建設[19-2]	電柱, 案内標識 の設置
	建造物修景地区	京都市市街地 景観整備条例, 景観法	届出 [23-1]	工作物(高さ1.5mを超える)の建設等(建 設, 外観を変更することとなる修繕若し しくは模様替え又は色彩の変更) [23-1-1-1(景観法 16-7-11)]	高欄・防護柵・照 明灯の建設等
				高架工作物の建設等(新設, 外観を変更 することとなる修繕若しくは模様替え又 は色彩の変更) [23-1-1-1(景観法 16-7-11)]	高架道路の 建設等
風致 保全 ・ 景観 政策	伝統的建造物群保存地区	京都市伝統的 建造物保存 地区条例	協議(特例) [4-1(6-1)]	建築物等の新築, 改築[4-1-1]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・改築
				建築物等の修繕, 模様替え又は色彩の変 更でその外観を変更[4-1-2]	高欄・横断歩道 橋の塗装塗装替え
	眺望景観保全区域	京都市眺望 景観創生条例	認定[9-1]	建築物等の建築等(新設, 標高の増加) [8-1-1, 9-1]	高欄・防護柵・照 明灯の新築・嵩上
			許可[9-5]	基準に適合しない(標高値を超える)建 築物等の建築等 [13-1] 撤去前提の工事用仮設建築物 [14-1]	工事用仮設建築 物の建築
	近景デザイン保全区域		届出[11-1-1]	建築物等の建築等(視点場との水平距離 が3kmを超える地盤面からの高さ10m以 下の建築等又は外観の変更を伴わない建 築等は除く)[11-1] ※歴史的風土保存区域, 近郊緑地保全区 域, 特別緑地保全地区, 美観地区, 美観 形成地区, 建造物修景地区, 風致地区, 自然風景保全地区又は伝統的建造物群保 存地区内はその申請, 協議, 通知又は届 出でよい [11-3]	高欄・防護柵・ 照明灯の建築等

3 どのようなみちにするのか—道路デザインの検討

みちの地域分類に基づき、地域特性に配慮したみちのデザインの考え方（デザインポイント）を示す。また、地域特性と空間構成によるデザイン具体的な内容及び事例とシミュレーションモデルを示す。

(1) デザインポイントについて

空間構成と地域特性によるデザインポイントと道路デザインとの関係を以下に示す。

なお、点については、特殊な場所であるため、今回のマニュアルでは記載しない。

地 域	空間構成		地域共通のデザインポイント	具体的な道路デザイン
	線 幹線道路	面 生活道路（街区）		
歴史的地域	・歴史的資源を引き立て、良質な背景となるデザイン	・歴史的地域の生活文化と伝統に配慮したデザイン	・時間の積み重ねによるエイジングの美が感じられるデザイン ・周辺建造物と調和の取れた本物志向のデザイン	自然系の素材や 柔らか味のある 形状など
自然周辺地域	・自然風景を引き立て、良質な背景となるデザイン	・豊かな自然に囲まれた生活に調和したデザイン	・自然の保全、自然との調和への配慮した人工物を突出させないデザイン ・山なみ、河川等、周辺の四季の変化や自然の見えを意識したデザイン	
中心市街地	・高層ビルなど沿道景観に統一感を与えるデザイン	・伝統ある生活文化や祭事に配慮したデザイン	・建物など沿道景観との調和に配慮したデザイン	工業系の素材や シンプルな形状 など
周辺市街地	・多様な沿道景観に統一感を与えるデザイン	・街区の成り立ちやコミュニティに配慮したデザイン		
空間構成共通のデザインポイント	区明・車道との境界を 分確にされたデザインに	・シンプルで洗練されたデザイン	・日々の営みの場として管理の容易なデザイン	
色彩の調和のさせ方など				

にぎわい については以下の点に注意する。

- ・伝統的な区域やにぎわい要素のある地域で、その特性を積極的に引き立てるように検討する。
- ・デザインの検討にあたってはその歴史的な背景や正しい様式の引用に配慮し、過剰なデザインは避ける。
- ・特異なケースであるため、今回のマニュアルには舗装及び工作物のデザインの基本形式について記載しない。

各地域の幹線道路、生活道路におけるみちのデザインのポイントとその地域を代表する道の事例を示す。

歴史的地域

共通事項
デザインのポイント
●時間の積み重ねにおけるエイジングの美が感じられるデザイン
●周辺建造物と調和の取れた本物志向のデザイン

幹線道路
デザインのポイント
●歴史的資源を引き立て、良質な背景となるデザイン
●車道との境界を明確にし、視覚的に区分されたデザイン
対象となるみちの例
   

生活道路
デザインのポイント
●歴史的地域の生活文化と伝統に配慮したデザイン
●限られた広がりの中での極めて細やかなデザイン
●日々の営みの場として管理の容易なデザイン
対象となるみちの例
   

自然周辺地域

共通事項
デザインのポイント
●自然の保全、自然との調和への配慮した人工物を突出させないデザイン
●山なみ、河川等、周辺の四季の変化や自然の見える意識したデザイン

幹線道路
デザインのポイント
●自然風景を引き立て、良質な背景となるデザイン
●車道との境界を明確にし、視覚的に区分されたデザイン
対象となるみちの例
   

生活道路
デザインのポイント
●豊かな自然に囲まれた生活に調和したデザイン
●日々の営みの場として管理の容易なデザイン
対象となるみちの例
   

中心市街地

共通事項
デザインのポイント
●建物など沿道景観との調和に配慮したデザイン

幹線道路
デザインのポイント
●高層ビルなど沿道景観に統一感をもたらすデザイン
●車道との境界を明確にし、視覚的に区分されたデザイン
●シンプルで洗練されたデザイン
対象となるみちの例
   

生活道路
デザインのポイント
●伝統のある生活文化や祭事に配慮したデザイン
●限られた広がりの中での極めて細やかなデザイン
●日々の営みの場として管理の容易なデザイン
対象となるみちの例
   

周辺市街地

共通事項
デザインのポイント
●建物など沿道景観との調和に配慮したデザイン

幹線道路
デザインのポイント
●多様な沿道景観に統一感をもたらすデザイン
●車道との境界を明確にし、視覚的に区分されたデザイン
●シンプルで洗練されたデザイン
対象となるみちの例
   

生活道路
デザインのポイント
●街区の成り立ちやコミュニティに配慮したデザイン
●限られた広がりの中での極めて細やかなデザイン
●日々の営みの場として管理の容易なデザイン
対象となるみちの例
   

(2) 地域特性と空間構成による考え方

ア 舗装

(ア) 幹線道路

地域ごとの景観色彩に対する舗装色彩の明度の基本的な考え方：				
色 彩	景観色彩の特性		調和のさせ方	舗装の明度の考え方 (黒アスファルト以外)
	歴史的 地域	歴史のある木造建築、屋根瓦、石垣、土塀などの自然素材の色により、全体的に重厚で暗い色調	対比調和	 中～高明度 明度 5～8
	自然 周辺地域	四季により変化する色調 (山並みの色、岸辺に植えられた植栽)	同調調和	 中明度 4～6
	中心 市街地	オフィスや商業施設などの中高層ビルや集合住宅等の大きな外壁により、全体では中～ <u>明るめ</u> の色調	対比調和	 低～中明度 3～5
	周辺 市街地	低層住宅街や商業施設等の様々な色が混在する	同調調和	 中明度 4～6
●地域特性との調和 基本をふまえつつ地域の特性に応じて明度を使い分けることにより、区域に応じた調和を図る。				

対比調和：周辺景観の色彩に対して、相対的に明度による適度なコントラストを持たせることにより、調和を図る。

同調調和：変化する自然や多様な色彩を有する景観色に溶け込み、同化させることによって調和を図る。

以下に、地域及び道路種別により分類した舗装のデザイン要素の基本を示す。

舗装の素材は担当事業課（所）の判断により適切なものを選定し、続いて色彩、形状、配置を以下の表を参考に選定していく。

素材の選定では、透水性舗装材やリサイクル材など、地球にやさしい素材を積極的に採用することで、環境負荷の低減に配慮する。

また、安心、安全の観点からユニバーサルデザインなどに十分配慮する。

（同一の路線において素材が異なっても、周辺景観を引き立てるという基調は変わらない。）

—舗装—

地域	空間構成 (道路種別)	素材																												
		ブロック系						アスファルト系	自然石																					
		色彩	明度	形状	配置	参照ページ	色彩・明度			色彩	明度	形状	配置	参照ページ																
歴史的 地域	幹線道路	○	無彩色	中～高明度 5～8	矩形を基本としつつ、 エイジングを感じさせる 柔らかな味のある形状 にも配慮する	できるだけ 整列された 単純なもの とする。	P17	○	ブロック系に 準ずる	○	無彩色 地色色	中～高明度 5～8	矩形を基本としつつ、 エイジングを感じさせる 柔らかな味のある形状 にも配慮する	できるだけ 整列された 単純なもの を基本とし、 周辺景観に 配慮して変化を 持たせるパター ンも可とする。	P18															
	生活道路	○	地色色 無彩色				P25	○		○					P26															
自然 周辺 地域	幹線道路	○	無彩色				中明度 4～6	P19		○					○	P20														
	生活道路	○	地色色 無彩色					P27		○					○	P28														
中心 市街地	幹線道路	○	無彩色	低～中明度 3～5			矩形を原則としつつ、 比較的整形な形状を基 本とする。	P21		○	—				—															
	生活道路	○	地色色 無彩色	中明度 4～6							P29										○	—								
周辺 市街地	幹線道路	○	無彩色	中明度 4～6							P22										○	—								
	生活道路	○	地色色 無彩色																			P30								

京のみちデザインチェックシート

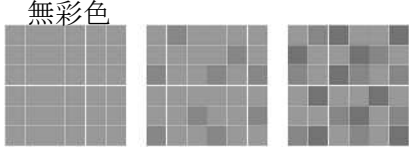
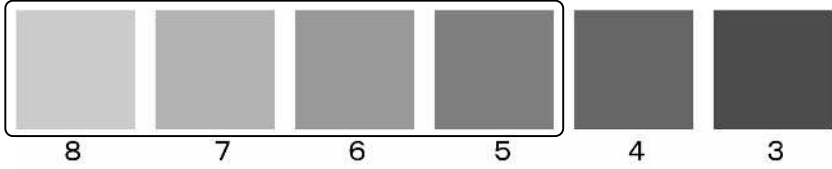
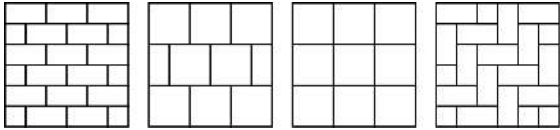
どのようなみちにするのか		デザインに あたっての 考え方		デザインの形式 (編組)	
舗装		素材	☐ アスファルト系 ☐ インターlockingフラッグ ☐ 自然石 ☐ その他()	☐ 基本、 ☐ その他	
		環境への配慮:			
☐ 歩道 ☐ 路肩 ☐ その他 (車道等)	色彩	☐ 無彩色 ☐ 地色色 ☐ その他()	☐ 基本、 ☐ その他		
	明度()	☐ 明度() ☐ 2色 ☐ 3色 ☐ その他、明度差()	☐ 基本、 ☐ その他		
	形状	☐ 矩形(長方形、正方形) ☐ その他	☐ 基本、 ☐ その他		
	配置	☐ 基本配置 ☐ その他	☐ 基本、 ☐ その他		
(歩道・路肩) カスロ等 素材・色彩・形状・配置					

※枠内への貼付が困難な場合は、別紙を添付する。

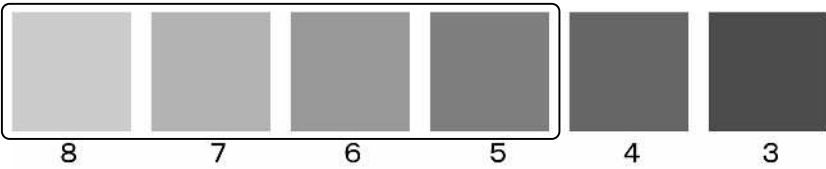
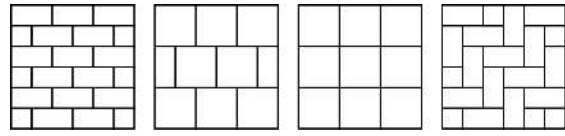
空間構成と地域から概略を把握する。
具体的な内容はP17～22を確認する。

舗装デザイン 幹線道路 歴史的地域

ブロック系（アスファルト系）

色 彩	(考え方) ・無彩色を基本とし、明度は5～8程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、明度差は1～1.5以内程度が望ましい。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 (基本色彩) イメージ  無彩色 単色 2色混合 3色混合 明度  8 7 6 5 4 3
形 状・ 仕 上 げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせる仕上げが望ましい。 ・仕上げとしてショットブラストなどの粗面状のものや、自然砂利の洗い出しなどが望ましい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形 長方形 (仕上りの例)  洗い出し 素地 ショットブラスト ローレット
配 置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備 考	・アスファルト系については、色彩の明度について上記を参考とする。 ・アスファルト系の仕上げについては、ショットブラストや研ぎ出しなど粗面状のものや自然砂利を骨材に用いたものを検討する。

自然石

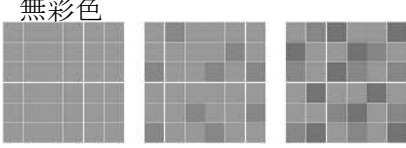
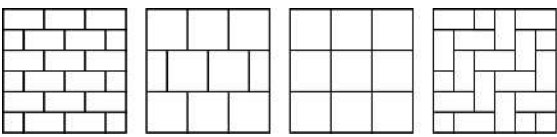
色 彩	(考え方) ・色調は、さび系（地道色）及びグレー系（無彩色）を基本とし、明度は5～8程度とする。 ・ある程度の色むらがある方が自然な感じで柔らかな表情となる。
	(基本色彩) イメージ さび系(地道色) グレー系(無彩色)  明度 
形 状 ・ 仕 上 げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせるエッジに柔らか味のある形状についても検討を行う。 ・仕上げは、ノミ切などの粗面状のものが望ましいが歩行性には十分配慮する。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。 ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。
	(基本形状) 正方形 長方形  正方形 長方形 正方形 長方形  正方形 長方形 (柔らか味のある形状) (仕上げの例) 荒のみ仕上げ のみ切り仕上げ ピシヤン仕上げ バーナー仕上げ バーナー仕上げ ／磨き仕上げ 
配 置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。
	(基本配置) 
備考	・自然石の使い方については、部分的な使用など周辺の沿道景観に合わせた使い方も検討する。

舗装デザイン

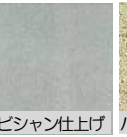
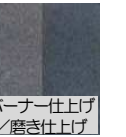
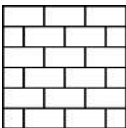
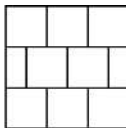
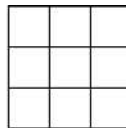
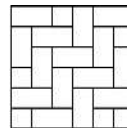
幹線道路

自然周辺地域

ブロック系（アスファルト系）

色	(考え方) ・無彩色を基本とし、明度は4～6程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、明度差は1～1.5以内程度が望ましい。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 ・自然のなかで溶け込む、混色を中心とした柔らかな色調が望ましい。
彩	(基本色彩) イメージ  単色 2色混合 3色混合 明度  8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせる仕上げが望ましい。 ・仕上げとしてショットブラストなどの粗面状のものや、自然砂利の洗い出しなどがふさわしい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形 長方形 (仕上げの例)  洗い出し 素地 ショットブラスト ローレット
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度及び仕上げについて上記を参考とする。 ・アスファルト系の仕上げについては、ショットブラストや研ぎ出しなど粗面状のものや自然砂利を骨材に用いたものを検討する。

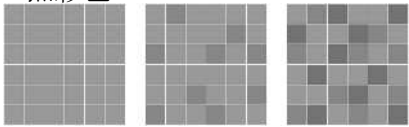
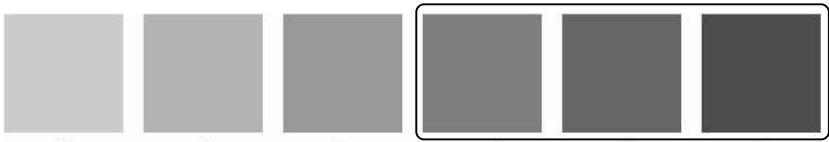
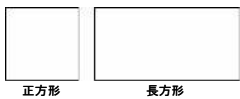
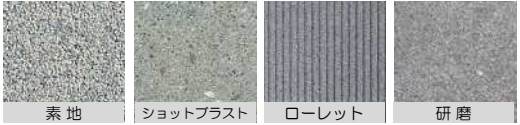
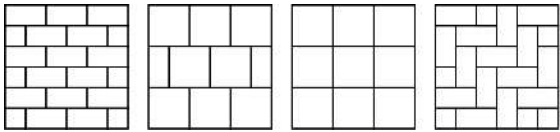
自然石

色 彩	(考え方) ・色調は、さび系（地道色）及びグレー系（無彩色）を基本とし、明度は4～6程度とする。 ・ある程度の色むらがある方が自然な感じで柔らかな表情となる。 (基本色彩) イメージ さび系(地道色)  グレー系(無彩色)   明度  8  7  6  5  4  3
形 状 ・ 仕 上 げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせるエッジに柔らか味のある形状についても検討を行う。 ・仕上げは、ノミ切などの粗面状のものが望ましいが歩行性には十分配慮する。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。 ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形  長方形  正方形  長方形 (柔らか味のある形状) (仕上げの例)      荒のみ仕上げ のみ切り仕上げ ピシャン仕上げ バーナー仕上げ バーナー仕上げ／磨き仕上げ
配 置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置)    
備 考	・自然石の使い方については、部分的な使用など周辺の沿道景観に合わせた使い方も検討する。

舗装デザイン 幹線道路

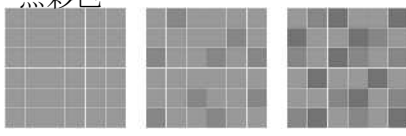
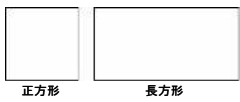
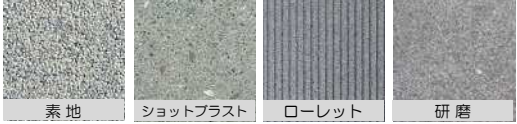
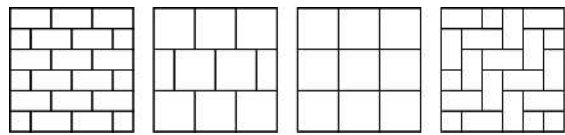
中心市街地

ブロック系（アスファルト系）

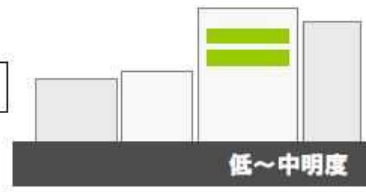
色	(考え方) ・無彩色を基本とし、明度は3～5程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、明度差は1～1.5以内程度が望ましい。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。
彩	(基本色彩) イメージ  単色 2色混合 3色混合 明度  8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本として比較的整形でシンプルな形状が望ましい。 ・中高層ビルが並ぶ現代的な町並みに隣接する場合は、スリットや光沢のある仕上げ、無機質で風合いのある仕上げなど現代的なデザイン性のある素材が望ましい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形 長方形 (仕上げの例)  素地 ショットブラスト ローレット 研磨
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度及び仕上げについて上記を参考とする。

舗装デザイン 幹線道路 周辺市街地

ブロック系（アスファルト系）

色	(考え方) ・無彩色を基本とし、明度は4～6程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、明度差は1～1.5以内程度が望ましい。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 ・伝統的な木造住宅が多い地域では、明るめの色調とする。 ・中高層ビルの多い地域ではやや暗めの色調とする。
彩	(基本色彩) イメージ  明度 
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本として比較的整形でシンプルな形状が望ましい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  (仕上げの例) 
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度及び仕上げについて上記を参考とする。

(イ) 生活道路

地域ごとの景観色彩に対する舗装色彩の明度の基本的な考え方：			
	景観色彩の特性	調和のさせ方	舗装の明度の考え方 (黒アスファルト以外)
色 彩	歴史的 地域	歴史のある木造建築、屋根瓦、石垣、土塀などの自然素材の色により、 <u>全体的に重厚で暗い色調</u>	対比調和  中～高明度 明度 5～8
	自然 周辺 地域	<u>四季により変化する色調</u> (山並みの色、岸辺に植えられた植栽)	同調調和  中明度 4～6
	中心 市街地	オフィスや商業施設などの中高層ビルや集合住宅等の大きな外壁により、 <u>全体では中～明るめの色調</u>	対比調和  低～中明度 4～6
	周辺 市街地	低層住宅街や商業施設等の <u>様々な色が混在する</u>	同調調和  中明度 4～6
● 区域特性との調和 <u>基本をふまえて地域特性に応じて明度を使い分けることにより、区域に応じた調和を図る。</u>			

対比調和：周辺景観の色彩に対して、相対的に明度による適度なコントラストを持たせることにより、調和を図る。

同調調和：変化する自然や多様な色彩を有する景観色に溶け込み、同化させることによって調和を図る。

以下に、地域及び道路種別により分類した舗装のデザイン要素の基本を示す。

舗装の素材は担当事業課（所）の判断により適切なものを選定し、続いて色彩、形状、配置を以下の表を参考に選定していく。

素材の選定では、透水性舗装材やリサイクル材など、地球にやさしい素材を積極的に採用することで、環境負荷の低減に配慮する。

また、安心、安全の観点からユニバーサルデザインなどに十分配慮する。

（同一の路線において素材が異なっても、周辺景観を引き立てるという基調は変わらない。）

—舗装—

地域	空間構成 (道路種別)	素材													
		ブロック系						アスファルト系		自然石					
			色彩	明度	形状	配置	参照ページ		色彩・明度		色彩	明度	形状	配置	参照ページ
歴史的 地域	幹線道路	○	無彩色	中～高明度 5～8	矩形を基本としつつ、 エイジングを感じさせる 柔らか味のある形状にも 配慮する	できるだけ 整列された 単純なもの とする。	P17	○	ブロック系に 準ずる	○	無彩色 地道色	中～高明度 5～8	矩形を基本としつつ、 エイジングを感じさせる 柔らか味のある形状にも 配慮する	できるだけ 整列された 単純なもの とすること を基本とし、 周辺景観に 配慮して変化 を持たせる パターンも可 とする。	P18
	生活道路	○	地道色				P25	○		○					P26
			無彩色												
自然 周辺 地域	幹線道路	○	無彩色	中明度 4～6	矩形を原則としつつ、 比較的整形な形状を基 本とする。	P19	○	○	P20						
	生活道路	○	地道色				P27	○		○	P28				
			無彩色												
中心 市街 地	幹線道路	○	無彩色	低～中明度 3～5	矩形を原則としつつ、 比較的整形な形状を基 本とする。	P21	○	—	—						
	生活道路	○	地道色	P29			○	—							
			無彩色							中明度 4～6					
周辺 市街 地	幹線道路	○	無彩色	中明度 4～6	矩形を原則としつつ、 比較的整形な形状を基 本とする。	P22	○	—	—						
	生活道路	○	地道色				P30	○		—					
			無彩色												

京のみちデザインチェックシート

どのようなみちにするのか		デザイン形式 (舗装)	
デザインにあたっての考え方			デザイン形式 (舗装)
舗装	素材	☐ アスファルト系 ☐ コンクリート系 ☐ 自然石 ☐ その他()	☐ 標準 ☐ その他
○歩道	色	☐ 無彩色 ☐ 地色色 ☐ その他()	☐ 標準 ☐ その他
○路肩	明度	☐ 低 ☐ 中 ☐ 高 ☐ その他()	☐ 標準 ☐ その他
○その他 (車道等)	形状	☐ 矩形(長方形、正方形) ☐ その他	☐ 標準 ☐ その他
	配置	☐ 基本配置 ☐ その他	☐ 標準 ☐ その他
(付随一覧表) 素材・色・明度の配慮 ※内部への転付が困難な場合は、別紙を添付する。			

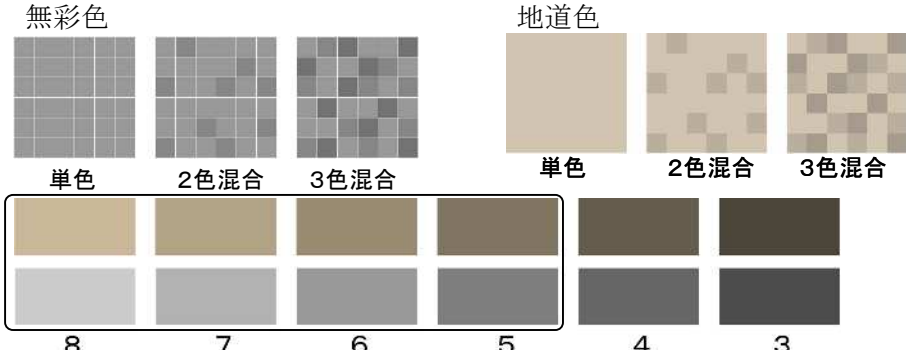
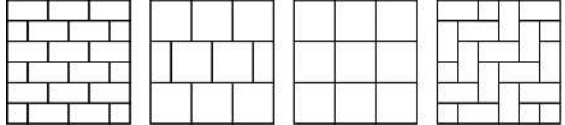
空間構成と地域から概略を把握する。
具体的な内容はP15～30を確認する。

舗装デザイン

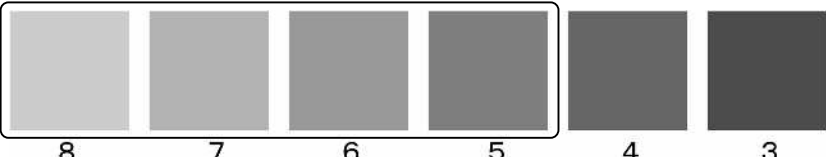
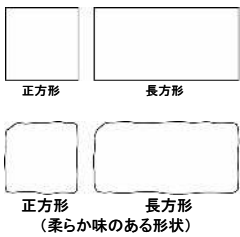
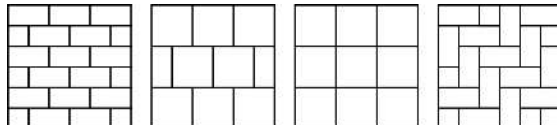
生活道路

歴史的地域

ブロック系（アスファルト系）

色	(考え方) ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は5～8程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、無彩色の明度差は1～1.5以内程度が望ましい。地道色の明度及び明度差は、可能な限り無彩色に準じる。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 ・地道色については周辺の景観色、建造物の色調に配慮して色彩を決定する。 ・木造建築物が隣接する道路では、地道色を優先する。
彩	(基本色彩) イメージ  明度 8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせる仕上げが望ましい。 ・仕上げとしてショットブラストなどの粗面状のものや、自然砂利の洗い出しなどがふさわしい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形 長方形 (仕上げの例)  洗い出し 素地 ショットブラスト ローレット
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度について上記を参考とする。 ・アスファルト系の仕上げについては、ショットブラストや研ぎ出しなど粗面状のものや自然砂利を骨材に用いたものを検討する。

自然石

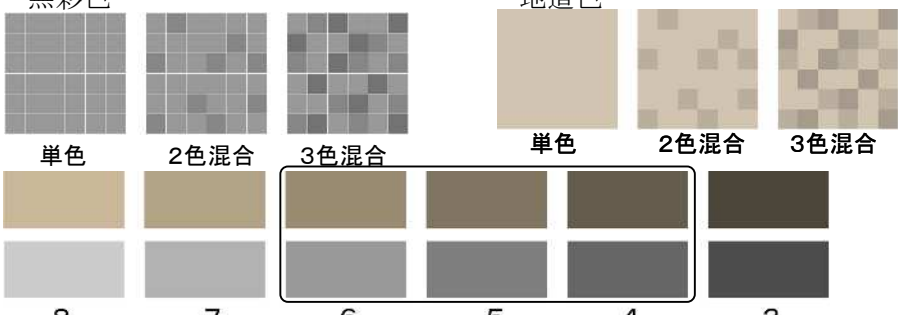
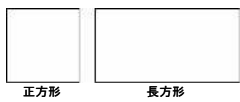
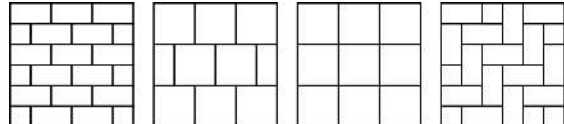
色 彩	(考え方) ・色調は、さび系（地道色）及びグレー系（無彩色）を基本とし、明度は5～8程度とする。 ・ある程度の色むらがある方が自然な感じで柔らかな表情となる。
	(基本色彩) イメージ さび系(地道色) グレー系(無彩色)  明度 
形 状 ・ 仕 上 げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせるエッジに柔らか味のある形状についても検討を行う。 ・仕上げは、ノミ切などの粗面状のものが望ましいが歩行性には十分配慮する。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。 ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。
	(基本形状) 正方形 長方形  正方形 長方形 (柔らか味のある形状) (仕上げの例)  荒のみ仕上げ のみ切り仕上げ ピシヤン仕上げ バーナー仕上げ バーナー仕上げ/磨き仕上げ
配 置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。
	(基本配置) 

舗装デザイン

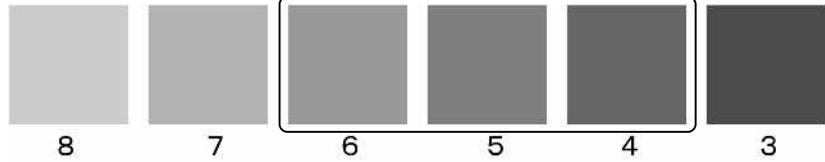
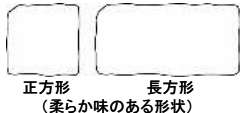
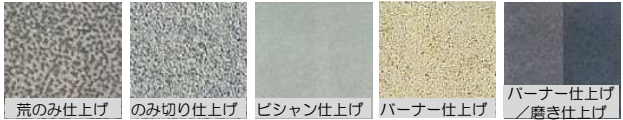
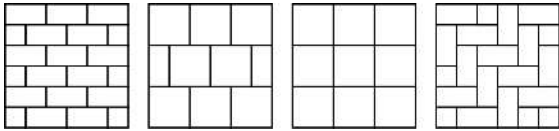
生活道路

自然周辺地域

ブロック系（アスファルト系）

色	(考え方) ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は4～6程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、無彩色の明度差は1～1.5以内程度が望ましい。地道色の明度及び明度差は、可能な限り無彩色に準じる。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。
彩	(基本色彩) イメージ  明度 単色 2色混合 3色混合 8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせる仕上げが望ましい。 ・仕上げとしてショットブラストなどの粗面状のものや、自然砂利の洗い出しなどがふさわしい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200mm～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  (仕上げる例) 
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度について上記を参考とする。 ・アスファルト系の仕上げについては、ショットブラストや研ぎ出しなど粗面状のものや自然砂利を骨材に用いたものを検討する。

自然石

色 彩	(考え方) ・色調は、さび系（地道色）及びグレー系（無彩色）を基本とし、明度は4～6程度とする。 ・ある程度の色むらがある方が自然な感じで柔らかな表情となる。
	(基本色彩) イメージ さび系(地道色) グレー系(無彩色)  明度 
形 状 ・ 仕 上 げ	(考え方) ・矩形を基本としてエイジングを感じさせるエッジに柔らか味のある形状についても検討を行う。 ・仕上げは、ノミ切などの粗面状のものが望ましいが歩行性には十分配慮する。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。 ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。
	(基本形状) 正方形 長方形  正方形 長方形 正方形 (柔らか味のある形状) 長方形  正方形 (柔らか味のある形状) 長方形 (仕上げの例) 荒のみ仕上げ のみ切り仕上げ ピシャン仕上げ バーナー仕上げ バーナー仕上げ ／磨き仕上げ  荒のみ仕上げのみ切り仕上げピシャン仕上げバーナー仕上げバーナー仕上げ／磨き仕上げ
配 置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。
	(基本配置) 

舗装デザイン

生活道路

中心市街地

ブロック系（アスファルト系）

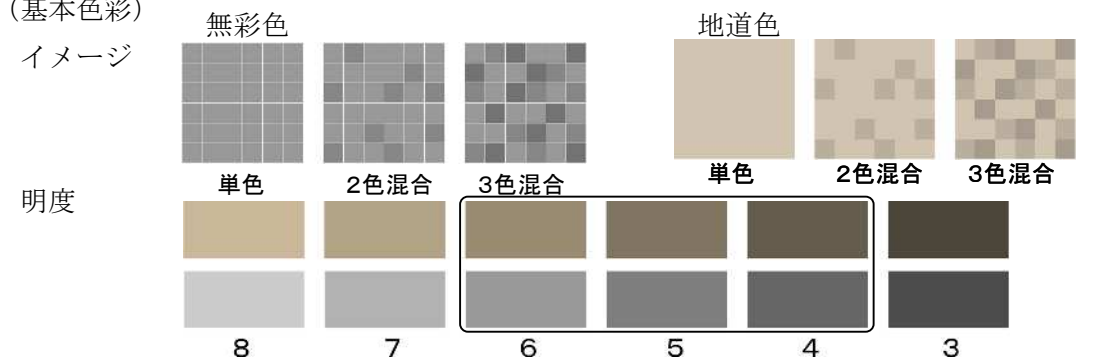
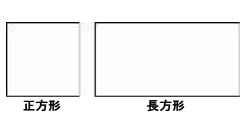
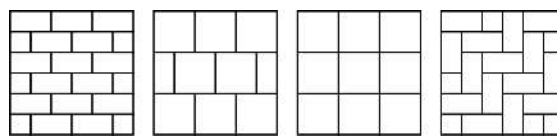
色	(考え方) ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は4～6程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、無彩色の明度差は1～1.5以内程度が望ましい。地道色の明度及び明度差は、可能な限り無彩色に準じる。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 ・隣接する建築物が現代的な明るい色調の場合は低明度、色彩が混在している場合は中明度の色調とする。 ・伝統的な木造住宅が多く隣接する道路では、明るめの無彩色か地道色を優先する。
彩	(基本色彩) イメージ 明度 単色 2色混合 3色混合 8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本として比較的整形でシンプルな形状が望ましい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状) 正方形 長方形 (仕上げる例) 洗い出し 素地 ショットプラスト ローレット 研磨
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置)
備考	・アスファルト系については、色彩の明度及び仕上げについて上記を参考とする。 ・伝統的な木造住宅が多く隣接する道路では、アスファルト系の研磨、地道色アスファルト等が望ましい。

舗装デザイン

生活道路

周辺市街地

ブロック系（アスファルト系）

色	(考え方) ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は4～6程度とする。 ・混色の場合は、柄を意識させるようなコントラストの強い配色は避け、無彩色の明度差は1～1.5以内程度が望ましい。地道色の明度及び明度差は、可能な限り無彩色に準じる。 ・単色もしくは2～3の混色とし、歩道幅が狭いところでは色数を少なくする。 ・隣接する建築物が現代的な明るい色調の場合は低明度、色彩が混在している場合は中明度の色調とする。 ・伝統的な木造住宅が多く隣接する道路では、明るめの無彩色か地道色を優先する。
彩	(基本色彩) イメージ  明度 8 7 6 5 4 3
形状・仕上げ	(考え方) ・矩形を基本として比較的整形でシンプルな形状が望ましい。 ・幅員の広い歩道では比較的大型の材を使用することが望ましい。(200～300mm角以上) ・レベルの変化や工作物の多い場所では、小型の材を使用することが望ましい。 (基本形状)  正方形 長方形 (仕上げの例)  洗い出し 素地 ショットプラスト ローレット 研磨
配置	(考え方) ・整列された単純なものを基本とし、周辺景観によっては変化を持たせたパターンも可とする。 (基本配置) 
備考	・アスファルト系については、色彩の明度及び仕上げについて上記を参考とする。 ・伝統的な木造住宅が多く隣接する道路では、アスファルト系の研磨、地道色アスファルト等が望ましい。

イ 工作物

以下に、地域及び道路種別により分類した工作物のデザイン要素の基本を示す。

工作物の素材は担当事業課（所）の判断により適切なものを選定し、続いて色彩、形状、配置を以下の表を参考に選定していく。

—工作物—

地域	色彩		形状	配置
	工業系	自然系	工業・自然系共通	工業・自然系共通
歴史的地域	基本色をダークブラウンとし、橋梁（歩道橋）など視野に占める規模の大きなものは、周辺の景観色との調和に配慮してベージュなどの色も採用する。	自然色	シンプルで飽きることのない標準型を基本とし、歴史的特性や地域固有の特性を積極的に取り入れた区域固有型の形状も検討する。	歩行者や自転車の安全性の確保のための有効復員の確保や、景観面に配慮した視点から、デザイン指針のキーワードを意識して計画する。整列された単純なものとする。
自然周辺地域				
中心市街地			シンプルで飽きることのない標準型を基本とする。	
周辺市街地				

※景観に配慮することで視認性が低下し接触が懸念される工作物には反射テープを使用するなど、安心、安全に十分配慮すること。

京のみちデザインチェックシート

デザインにあたっての考え方					デザインの形式（工作物）	
工作物	素材	☐ 工業系（ ）	☐ 自然系（ ）	☐ その他	☐ 基本、 ☐ その他	空間構成と地域から概略を把握する。 具体的な内容は、P32を参照する。
防護柵	形状	環境への配慮： ☐ 標準型 ☐ 地域固有型			☐ 基本、 ☐ その他	
その他	色彩	☐ ダークブラウン ☐ ダークグレー ☐ ダークブラウン/ベージュ ☐ グレー ☐ ベージュ ☐ その他（壁紙・タイルを含む） ☐ 自然色			☐ 基本、 ☐ その他	
	配置	工夫した点：			☐ 基本、 ☐ その他	
カタログ等 ※特内への貼付が困難な場合は、別紙を添付する						

工作物デザイン (空間構成・地域共通)

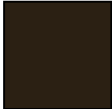
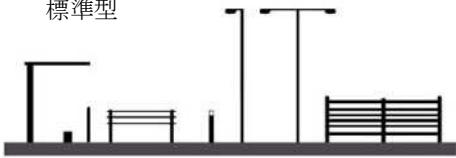
歴史的地域

自然周辺地域

工業系・自然系共通

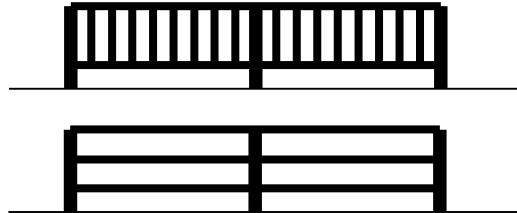
中心市街地

周辺市街地

色 彩	(考え方) ・歴史的地域・自然周辺地域においてはダークブラウン(10YR2.0/1.0)を基本色とし、中心市街地・周辺市街地においてはダークグレー(10YR2~3/0.2)を基本色とする。 ・橋梁(歩道橋)など視野に占める規模が大きいものは、周辺景観との調和に配慮してグレーベージュなどの色も採用できるものとする。 ・工作物の主たる部位(柱、梁)は基本色とし、付属部位では、他の色をアクセントとして用いることも可能とする。 ・自然系は素材の色を活かすように検討する。
	(基本色彩)  ダークブラウン (10YR2.0/1.0)  ダークグレー (10YR2~3/0.2)  ガンメタリックシルバー (いぶし瓦のイメージ)  グレーベージュ  自然石 自然素材色  木材 自然素材色
形 状	(考え方) ・シンプルで飽きることのない標準型を基本とする。 ・歴史的地域や自然周辺地域では、区域固有型を用いることも検討するが、過剰なデザインは避ける。
	(基本形状) 標準型  区域固有型 
配 置	(考え方) ・歩行者や自転車の安全性の確保のための有効復員の確保や、景観面に配慮した視点から、デザイン指針のキーワードを意識して計画する。整列された単純なものとする。
	(キーワード) 隠す  寄せる  揃える  集める  省く 

工作物（防護柵）の例（標準型）

- ・ 防護柵を構成する部材は，曲線をなるべく使用せず，直線を基本とする。
- ・ 支柱や格子に装飾や柄を使用しない。
- ・ 眺望や視距を確保する場合，縦柵型より透過性の高い横柵型が好まれるが，横柵型は乗越えがしやすくなるため，幹線道路等では事故防止の観点を十分注意して検討すること。



直線部材を用いた防護柵の例

（３）自転車通行空間の色彩について

自転車通行空間の色彩については、以下のベンガラ色を基本とする。

【ベンガラ色】

自転車通行空間（歩道部）

- ・ アスファルト舗装：色粉の割合を「ベンガラ色：黒色＝７０：３０」としたもの
- ・ インターロッキングブロックやカラー塗装等：次頁参照

※なお、周辺景観等の地域特性により、別途考慮が必要な場合は、必要に応じて局内デザイン検討会において検討した上で、技術審査委員会で承認を得ることとする。

自転車通行空間（車道部）

- ・ 視認性（特に夜間）に配慮し、明度を高めたベンガラ色（色相 2.5 R，彩度 4，明度 6）とする

【ベンガラ色を基本色とする理由】

- ・ 本市における自転車通行空間の色彩等については、「ベンガラ（赤色）系」が全体の 7 割程度（平成 24 年 2 月末時点）を占めており、概ね統一が図られていること
- ・ 景観に配慮し、一定の視認性が確保できること
- ・ ベンガラ色はストレートアスファルトに色粉を混入することによる発色が可能であり、経済性に優れ（その他のカラー舗装の場合は脱色系アスファルトとなり、経済性等が劣る）、施工規模などにかかわらず常に同一の色彩が出しやすいこと



【参考】自転車通行空間（車道部）ベンガラ色※

※色彩については、必ず、実際の色見本帳で確認すること

自転車通行空間（歩道部）の色彩の適用範囲
(インターロッキングブロックやカラー塗装等)

色相 明度	紫色系 ← 赤色系 → 黄色系 (彩度3)				
	2. 5 R	5 R	7. 5 R	1 0 R	2. 5 Y R
2					
3					
4			ベースカラー		
5					
6			組合せカラー		

【単一色とする場合】

- ・ ベースカラーの範囲内（色相 5 R～1 0 R，明度 2～4，彩度 3）から選択するものとする。

【混合色とする場合】

- ・ ベースカラーを主体とし，それに組合せカラーの範囲内（色相 5 R～1 0 R，明度 2～6，彩度 3）から選択したものを組み合わせるものとする（明度差は 1～1. 5 以内程度が望ましい）。

(4) シミュレーションモデル

幹線道路

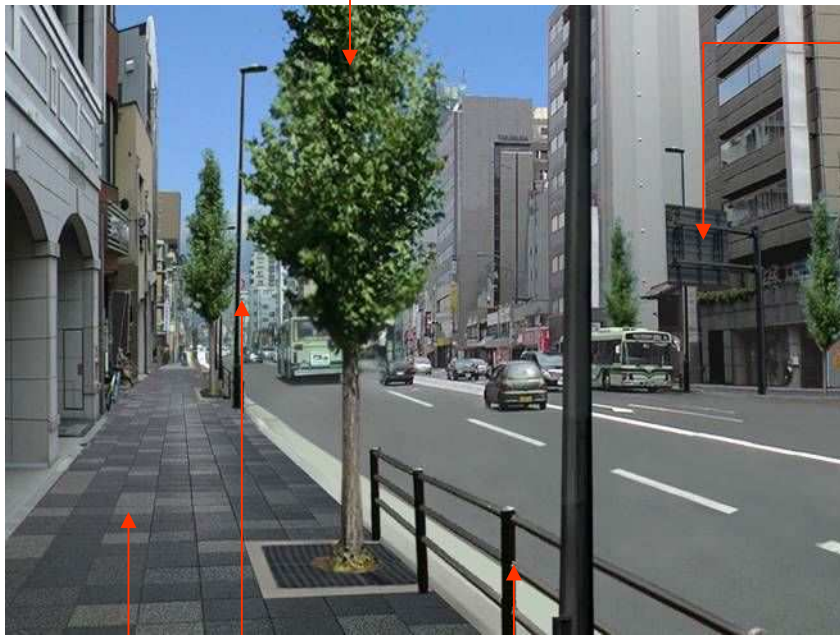
中心市街地

計画のプロセス(例)

- | | |
|---|---|
| <p>1. どのようなみちか</p> <p>対象道路 : 幹線道路(4車線)</p> <p>歩道幅員 : 3.0m</p> <p>工作物 : 横断防止柵・道路照明</p> <p>街路樹 : 有</p> <p>2. どのような地域か</p> <p>地域特性 : 中心市街地</p> <p>周辺状況 : 中高層ビル街(オフィス街)</p> | <p>3. どのようなみちにするのか</p> <p>歩道舗装 : 素材—ブロック系</p> <p>色彩 — 無彩色(明度4程度)／混色(3色)</p> <p>形状 — 正方形(300角)</p> <p>仕上げ—ショットブラスト</p> <p>配置 — 基本(通し目地)</p> <p>工作物 : 素材—工業系</p> <p>色彩 — ダークグレー(10YR2.5/0.2 程度)</p> <p>形状 — 標準型</p> <p>配置 — 寄せる(横断防止柵と照明柱の位置)</p> |
|---|---|

街路樹
みどり政策推進室と協議して検討

道路標識
裏面の塗装



歩道舗装

色彩 — 色彩のカラーパレットより無彩色を選択。
(周辺の景観色が明るめであるため、やや暗めの色調を選択)

形状 — 幅員(3.0m)から大き目の形状(300×300)を選択。

工作物(横断防止柵・道路照明)

色彩 — 市街地であり、ダークグレーを選択。

形状 — 基本形状である標準型を選択。
(柵はシンプルな横柵型)

配置 — 縁石側に寄せて配置。

幹線道路

周辺市街地域

計画のプロセス(例)

- | | |
|---|--|
| <p>1. どのようなみちか</p> <p>対象道路 : 幹線道路(4車線)</p> <p>歩道幅員 : 3.0m</p> <p>工作物 : 横断防止柵・道路照明</p> <p>街路樹 : 有</p> <p>2. どのような地域か</p> <p>地域特性 : 周辺市街地</p> <p>周辺状況 : 中小ビルが混在</p> | <p>3. どのようなみちにするのか</p> <p>歩道舗装 : 素材—ブロック系</p> <p>色彩 — 無彩色(明度5程度)／混色(3色)</p> <p>形状 — 長方形(100×200)</p> <p>配置 — 基本(フィッシュボーンパターン(網代敷き))</p> <p>工作物 : 素材—工業系</p> <p>色彩 — ダークグレー(10YR2.5/0.2 程度)</p> <p>形状 — 標準型</p> <p>配置 — 寄せる(横断防止柵と照明柱の位置)</p> |
|---|--|



街路樹
みどり政策推進室と協議して検討

道路標識
裏面の塗装

歩道舗装
色彩 — 色彩のカラーパレットより無彩色を選択。
(様々な色が混在している地域であり、中明
度の色調)

工作物(横断防止柵・道路照明)
色彩 — 周辺市街地であるため、ダーク
グレーを選択。
形状 — 基本形状である標準型を選択。
(柵はシンプルな縦柵型)
配置 — 縁石側に寄せて配置。

生活道路

中心市街地

計画のプロセス(例)

1. どのようなみちか

対象道路 : 生活道路
歩道 : 無
工作物 : 無
街路樹 : 無

3. どのようなみちにするのか

路側帯 : 素材—ブロック系
色彩 — 無彩色(明度6程度)／ 混色(3色)
形状 — 長方形(100×200)
配置 — 基本(ブリックパターン)

2. どのような地域か

地域特性 : 中心市街地
周辺状況 : 中小ビルと木造住宅が混在



路側帯舗装

色彩 — 比較的小木造住宅が多く混在しているため、明るめの無彩色を選択。

* 車道と路側帯を同素材(ブロック系、自然石)とする場合は、形状を変えることで車道 部と路側帯を区分し、なおかつ路側線で明示。
地道色AS等のAS系舗装の場合は、路側帯を路側線で明示。

生活道路

周辺市街地

計画のプロセス(例)

1. どのようなみちか

対象道路 : 生活道路
歩道幅員 : 2.5m
工作物 : 無
街路樹 : 無

3. どのようなみちにするのか

歩道舗装 : 素材—ブロック系
色彩 — 地道色(明度5程度)／ 混色(2色)
形状 — 長方形(100×200)
配置 — 基本(ブリックパターン)

2. どのような地域か

地域特性 : 周辺市街地
周辺状況 : 伝統様式の木造が多い住宅街



歩道舗装

色彩 — 周辺が伝統様式の木造住宅であるため、地道色を選択。
周辺景観の色合いから柔らかな色調となる混色とし、歩道幅員から2色の組み合わせを選択。

(5) 地域特性によるデザイン事例

歴史的地域



無彩色によるシンプルな配色。車道との境界が明確である。(烏丸通—東本願寺前)



古材風の石畳舗装により、エイジングの美が感じられるみちとなっている。また、様々な色の石材が用いられており、周辺景観になじんだ自然な色合いとなっている。(祇園新橋)



大判の石材による石畳舗装。周囲を引き立てる控えめなデザインであり、本物志向のデザインとなっている。(浄福寺通・ねねのみち)



歩車道とも同系の舗装材(石材)を用い、周辺の建造物になじんだ色合いとしている。石材の形状を変えることで車道と歩道部を区分している。(花見小路通)



地道色As舗装とすることで、周辺景観になじんでいる。(建仁寺周辺)



中央と両端で素材(自然石、平板ブロック)と形状を変えている。(宮川町周辺)



路側帯を地道色AS舗装とし、車道を無彩色のカラーAs舗装としている。(社家町周辺)

自然周辺地域



石畳舗装の歩道。大判の石材を用い、柔らかな色調で鴨川沿いの景観になじんでいる。
(川端通)



現況木を活かした舗装形態。樹木周りは、根茎を保護する基盤処理がなされている。
(川端通)

中心市街地



無彩色による明度差を抑えた配色。バス停、ベンチなどのファニチャーもすっきりしたデザインとなっている。
(御池通)



車道部を地道色As舗装、歩道部を地道色のブロック舗装とし、同系色とすることで全体に柔らかな雰囲気のみちとしている。
(東山区)



車道を黒のAs舗装、歩道を無彩色のブロック舗装としている。
(縄手通)



車道を石畳舗装、歩道を平板ブロック舗装と異なる素材で整備している。色合いは揃えているが素材を変えることにより歩車道を区分している。
(東山区)



路側帯の素材を変え、車道と異なる色彩としている。
(三条通)



車道を地道色As舗装とし、路側帯をAs舗装としている。
(千本通)

周辺市街地



歩道の歩行者が通行する部分と自転車が通行する部分が無彩色の明度のコントラストで区分している。
(右京区)

にぎわい



歴史的地域におけるにぎわい。周辺の建造物に合わせた石畳舗装とすることで、地域の雰囲気を作りだしている。
(東山区)



無彩色を用いて商店街のにぎわいを演出している。
(寺町商店街)

舗装の形状・配置



通行部は大きな材を、工作物のある端部は小さな材を用いている。



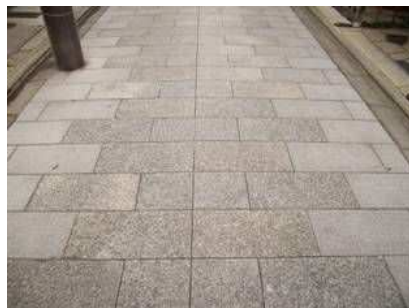
エッジのきっちりした材を用い、シンプルなストライプによりアクセントをつけた例。



歴史的建造物で用いられている柔らかな表情の石畳舗装。



みちの方向性や縁石との取り合いに配慮した例。



比較的幅員の狭い道で300×600mmの材を用いた例。



歩道と公園の園路を一体化することでゆったりとした歩行空間を提供している。

防護柵



景観と調和し易いシンプルな縦柵型。



景観と調和し易いシンプルな横柵型。透過性も高い。



自然周辺地域で用いられている透過性の高い横柵型。



風格のある縦柵型。



鉄と木材を組み合わせたシンプルな構成の横柵型。



間伐材を用いた転落防護柵。



間伐材を用いた横断防止柵
植栽と組み合わせることで
表情を和らげている。

車止め



自然石を用いた重厚感のある形態。



自然石を用いたシンプルな形態。



現代的でシャープなデザイン。



シンプルで洗練された形と
鋳物の素材感。

照明

自然素材と工業材の組み合わせ



石とアルミ鋳物の照明柱。



石と真鍮を組み合わせた
フットライト。
防護柵の間に設置している。

シンプルな照明灯



周辺景観と調和した
シンプルな照明柱。

現代的なスタイル



通を示すシンプルな
形態の辻標と
シンプルな照明柱。
舗装の色調と調和
した色彩。

集める



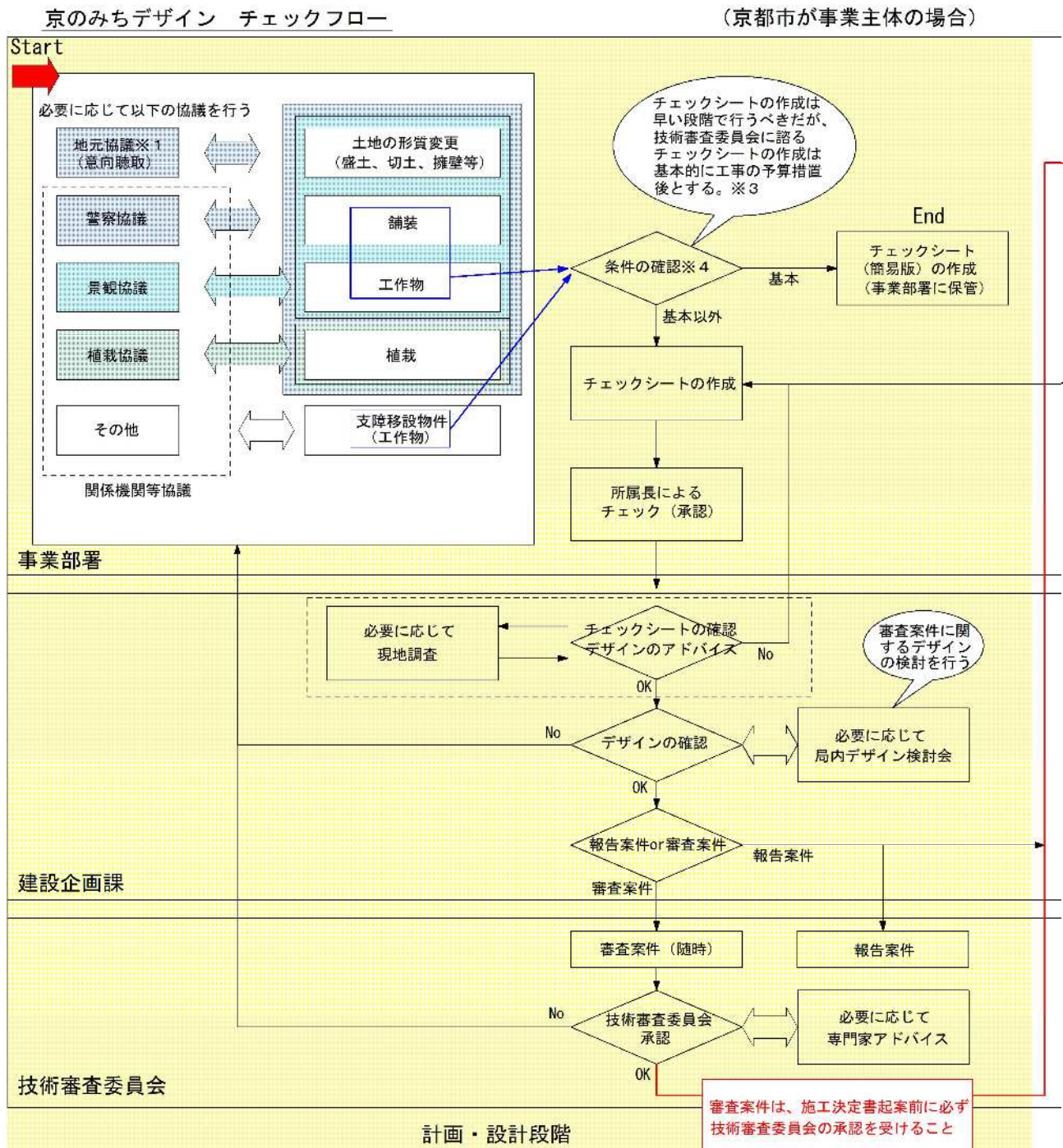
4 指針に沿ったみちになっているか—道路デザインのチェック

最後に指針，マニュアルに沿ったみちとなっているかをチェックする体制について示す。

(1) チェック体制

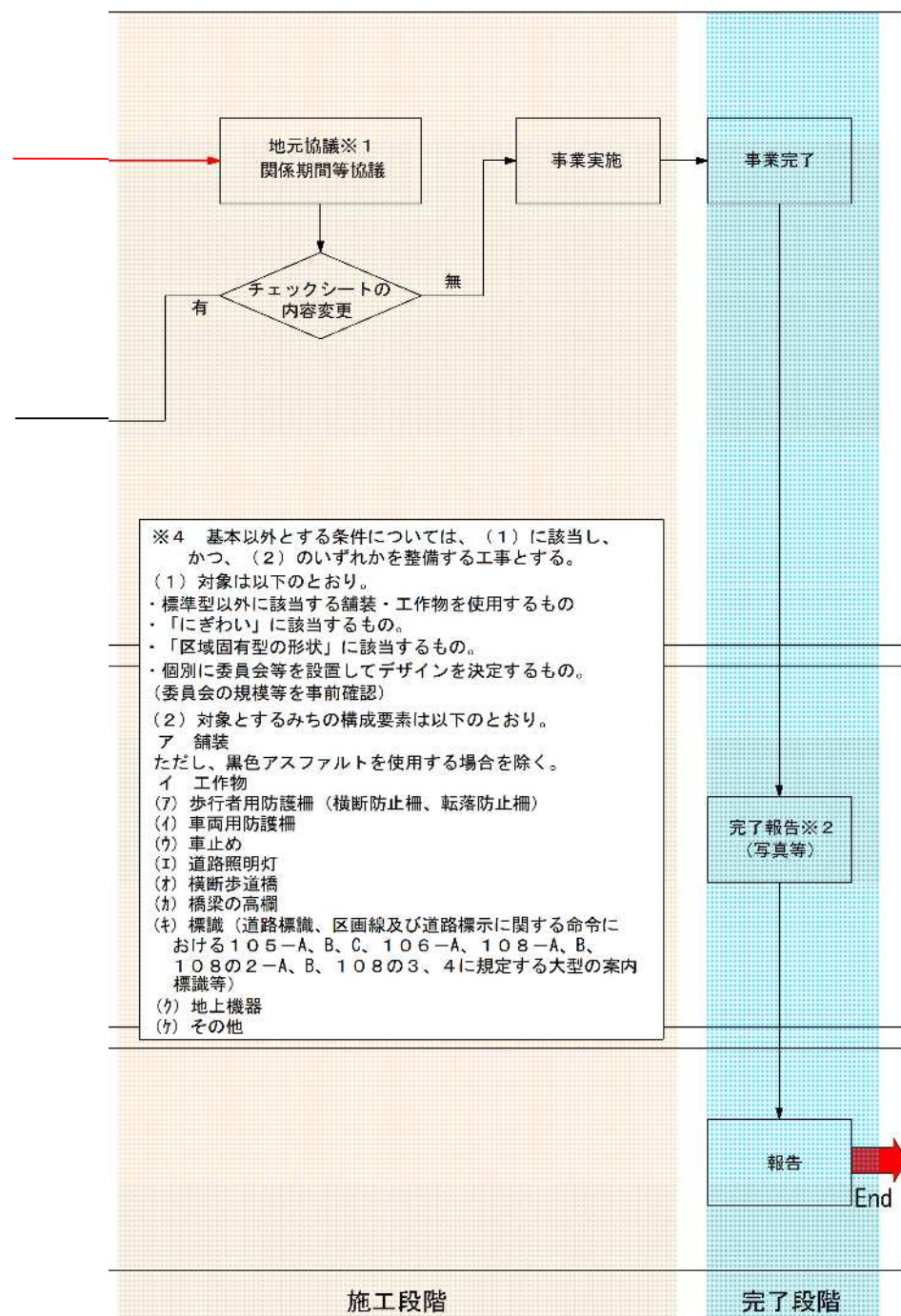
ア 京都市が事業主体となる場合のチェックフロー

※【注意】関係機関等協議を行う前に本マニュアルにおける基本デザインをよく確認しておくこと

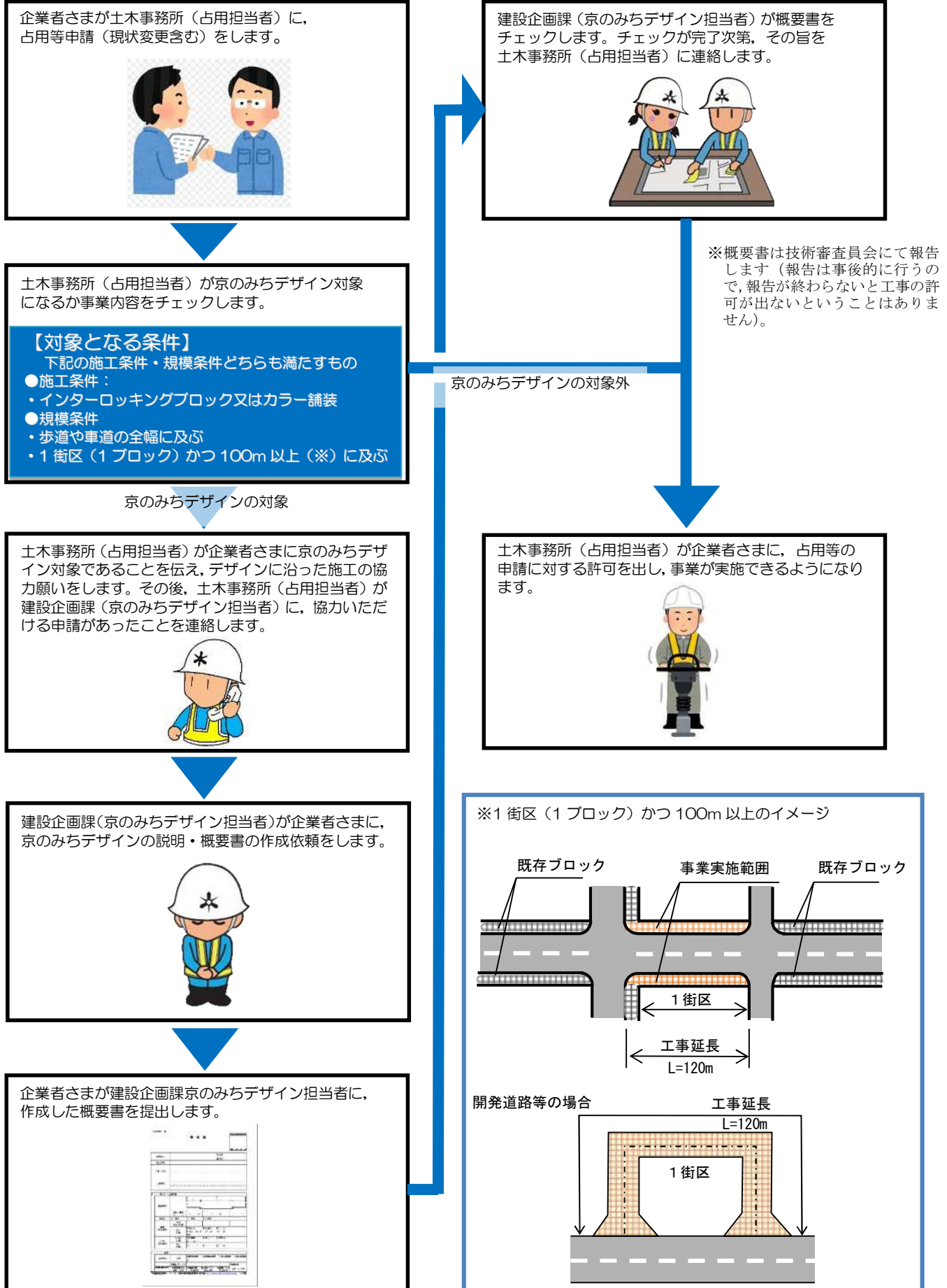


注)

- ・※1 道路デザインは京都市の案を地元に提示し、話し合いを行う。
- ・※2 建設企画課は完了報告書を保存する。ただし、事業部署に保管するものを除く。
- ・※3 予備設計、詳細設計段階においても、必要があれば、技術審査委員会への審査、報告は可能とする。



イ 企業者等が事業主体となる場合のチェックフロー



(2) 京のみちデザインチェックシート

<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">所属長承認日</td> <td style="text-align: center; padding: 2px 5px;">/ /</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">審査委員会承認日</td> <td style="text-align: center; padding: 2px 5px;">/ /</td> </tr> </table>		所属長承認日	/ /	審査委員会承認日	/ /													
所属長承認日	/ /																	
審査委員会承認日	/ /																	
京のみちデザインチェックシート <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px;">作成者</td> <td style="width: 60%;"></td> <td rowspan="3" style="width: 25%; padding: 5px; vertical-align: top;"> デザインの形式 (全項目) </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">工事名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">施工場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">工事の目的</td> <td></td> <td style="padding: 5px;"> ☐ 基本 ☐ その他が1つ以上 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">工事概要</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		作成者		デザインの形式 (全項目)	工事名		施工場所		工事の目的		☐ 基本 ☐ その他が1つ以上	工事概要						
作成者		デザインの形式 (全項目)																
工事名																		
施工場所																		
工事の目的		☐ 基本 ☐ その他が1つ以上																
工事概要																		
1どのようなみちか																		
道路の 現状把握	道路の 現況写真 (代表写真) (☐ (道路を中心に撮影する。 側)																	
	(代表写真) (☐ 側)																	
道路幅員構成 (起点→終点)																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">道路幅員</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">m=</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">a=</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">m</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">b=</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">m</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">c=</td> <td style="width: 15%; padding: 2px 5px;">m</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 5px;">舗装の素材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		道路幅員	m=	a=	m	b=	m	c=	m	舗装の素材							
道路幅員	m=	a=	m	b=	m	c=	m											
舗装の素材																		
車線数	☐ 4車線 ☐ 2車線 ☐ 1車線																	
工作物の有無 (規格)	☐ 防護柵 ☐ 車止め ☐ 照明柱 ☐ その他()																	
街路樹	☐ 低木 ☐ 高木 ☐ ない																	
空間構成の把握	☐ 線(幹線道路) ☐ 面(生活道路) ☐ 点()																	

2どのような地域か						
周辺状況の把握	周辺建造物の現況写真 (代表写真) (○ 側) 周辺の建物等を中心に撮影する。					
	(代表写真) (○ 側)					
	※その他写真が必要な場合は、別紙を添付する。					
	周辺建造物	周辺の建物 ☐中高層ビル ☐中小ビル ☐低層住宅 ☐寺社・仏閣 ☐その他()				
		沿道景観の素材 ☐工業系(コンクリート等) ☐自然系(木材等)				
	隣接する自然 ☐河川 ☐公園 ☐その他()					
その他特記事項						
地域特性の把握	地域	☐ 歴史的地域 ☐ 自然周辺地域 ☐ 中心市街地 ☐ 周辺市街地				☐ にぎわい
景観計画区域等		景観区域の名称				景観協議
		眺望景観保全地域の名称	☐ 眺望空間保全区域	☐ 近景デザイン保全区域	☐ 遠景デザイン保全区域	☐ 要 , ☐ 不要

3どのようなみちにするのか				
デザインにあたっての考え方				デザインの形式 (舗装)
☐ 舗装 ☐ 歩道 ☐ 路肩 ☐ その他 (車道等)	素材	☐ アスファルト系 ☐ インターロッキングブロック ☐ 自然石 ☐ その他() 環境への配慮:		☐ 基本, ☐ その他
	色彩	☐ 無彩色 ☐ 地色色 ☐ その他() 明度(~) ☐ 混色(☐ 2色 ☐ 3色 ☐ その他 , 明度差())		☐ 基本, ☐ その他
	形状	☐ 矩形(長方形, 正方形) ☐ その他		☐ 基本, ☐ その他
	配置	☐ 基本配置 ☐ その他		☐ 基本, ☐ その他
	(歩道一般部) カタログ等 素材・色彩・形状・配置			※枠内への貼付が困難な場合は、別紙を添付する。
(歩道乗入れ部) カタログ等 素材・色彩・形状・配置			※枠内への貼付が困難な場合は、別紙を添付する。	

デザインにあたっての考え方				デザインの形式 (工作物)
工作物	素材	☐ 工業系() ☐ 自然素材() ☐ その他 環境への配慮:		☐ 基本, ☐ その他
☐ 防護柵	形状	☐ 標準型 ☐ 地域固有型		☐ 基本, ☐ その他
☐ その他	色彩	☐ ダークブラウン ☐ ダークグレー ☐ ガンメタリックシルバー ☐ グレーベージュ ☐ その他 (亜鉛メッキを含む) ☐ 自然色		☐ 基本, ☐ その他
	配置	工夫した点:		☐ 基本, ☐ その他
カタログ等 ※枠内への貼付が困難な場合は、別紙を添付する。				

舗装

地域	空間構成 (道路種別)	素材													
		ブロック系						アスファルト系		自然石					
		該当箇所 に○入力	色彩	明度	形状	配置	参照ページ	該当箇所 に○入力	色彩・明度	該当箇所 に○入力	色彩	明度	形状	配置	参照ページ
歴史的 地域	幹線道路		無彩色	中～高明度 5～8	矩形を基本 としつつ、エイ ジングを感じ させる柔ら か味のある 形状にも配 慮する。	整列された 単純なもの とする。	P17	ブロック系に準 ずる。	無彩色 地道色	中～高明 度 5～8	矩形を基本 としつつ、エイ ジングを感じ させる柔ら か味のある形 状にも配慮す る。	整列された 単純なもの とすること を基本とし、 周辺景観に 配慮して変化 を持たせるハ ターンも可 とする。	P18		
	生活道路	地道色	P25				P26								
無彩色															
自然周 辺地域	幹線道路		無彩色	中明度 4～6			P19						P20		
	生活道路	地道色	P27				P28								
無彩色															
中心市 街地	幹線道路		無彩色	低～中明度 3～5	P21		—								
	生活道路	地道色	P29		—										
無彩色															
周辺市 街地	幹線道路		無彩色	中明度 4～6	P22		—								
	生活道路	地道色	P30		—										
無彩色															

(裏面へ続く)

工作物

地域	色彩				形状 工業・自然系共通	配置 工業・自然系共通
	該当箇所 に○入力	工業系	該当箇所 に○入力	自然色		
歴史的 地域		ダークブラウン		自然色	シンブルで飽きることのない標準型を基本とする。	歩行者や自転車の安全性の確保のための有効幅員の確保や、景観面に配慮した視点から、デザイン指針のキーワードを意識して計画する。 整列された単純なものとする。
		グレーベージュ※				
自然 周辺 地域		ダークブラウン				
		グレーベージュ※				
中心 市街 地		ダークグレー				
		グレーベージュ※				
周辺 市街 地		ダークグレー				
		グレーベージュ※				

※橋りょう(歩道橋)など視野に占める規模の大きなものに採用可能とする。

上表に当てはまらない場合は、「基本以外」となります。
京のみちデザインチェックシートを作成のうえ、建設企画課まで御相談ください。

みやこ

京のみちデザインマニュアル

京都市建設局建設企画部建設企画課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

TEL(075)222-3551 FAX(075)222-3531

平成 22 年 4 月

平成 25 年 2 月改訂 (追記)

平成 25 年 3 月改訂 (追記)

平成 30 年 10 月改訂 (追記)

令和 3 年 3 月改訂 (変更)

令和 5 年 3 月改訂 (変更)